



成年
コミック

AKANE

小林少年

KOBAYASHISHOWNEN

小林少年



柔らかな襞

やわらかなひだ

成年
コミック

茜新社



柔らかな襞

やわらかなひだ



AKANE COMICS

成年
コミック

KOBAYASHISHOWNEN

小林少年

柔
ら
り
か
な
な
壁
襖

やわらかなひだ





やわ 柔らかな壁 ひだ

目次

おとにあわせてうたいおどる	7
やわらかい感触	25
どうしても言ってしまう彼女の一番嫌いな台詞	43
PAGE 16	59
壁に鼠穴	75
さらば旧人 '97	93
かわいい溺壺	109
平らな道	125
無防備な抵抗	143
枕のキモチ	159
魔法使いの天上空間	177

小林少年

おとに あわ せる
う た い お ど







ホ

ホト

天!!

“天”

重なる度に熱をおびるカラダと

ほ

はあ、

५५

ほ、

海

しす

 $7\frac{1}{2}$

憶えたての快楽

ほ

あ

ほ

ほ

あ

あ

あ

ヒ
ヒ
ヒ

い
く
.....

ヒ
ヒ
ヒ

い
っ
ち
ゃ
う

ヒ
ヒ
ヒ
ヒ
ヒ
ヒ

グ
グ
グ
グ

グ
グ
グ
グ



いくっ

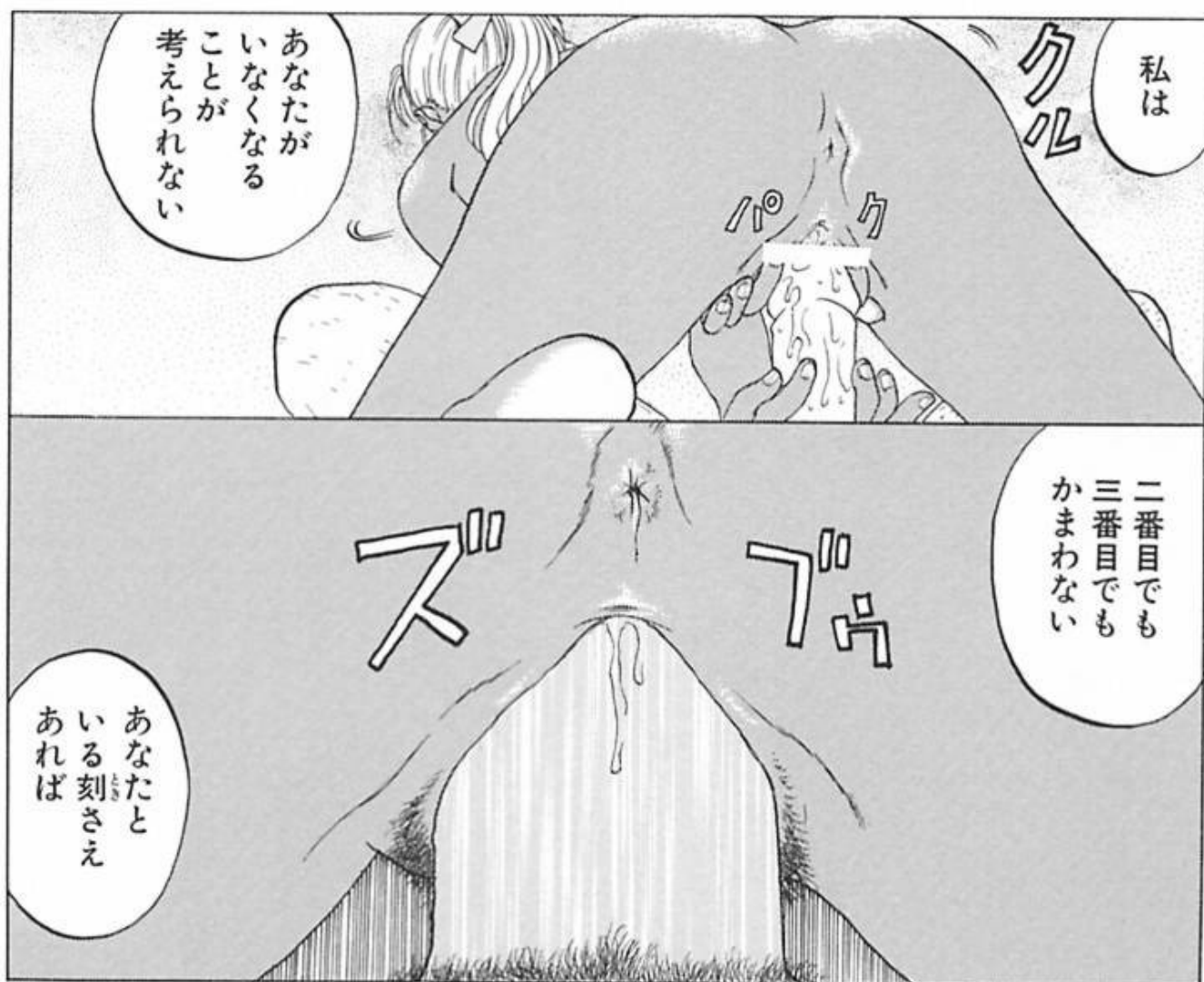
ビク

ビク
ビク
クン

もう忘れられない……

あなたなしなんて
考えられない







あんなに嫌がってた
ここだって

あなたのために

グ
ブ
ッ

今ではこっちで
だっていけるの

ハア...

ハア...

ギ
ュ
ッ
ッ

下品でしょ
でもいっちゃうの

ハア...

お願いだから

…だから

私のこと
好きじゃなくても
いいの

私のこと
考えてくれなくても
いいの

グ
グ
グ

ズ
ブ
ン

グ
グ
グ

あ…

ん…



私は人形でも便所でも

あなたの側にいられば

んふ？

ん...

ブスッ

グッ



グイッ

ポ

ん

チン





ねエ

気持ちいい？

あ、
は、

私とでも
気持ちいいのは
かわらないでしょ

ぐわー

ぐわー

ズッ

ズッ

☆

ダメなの？

んっ

腰をふれば
いい？

こうやって
こうやって

あっ

グッ

グッ

グッ





愛してるって



踊り続けたいから

あなたの手のヒラで……



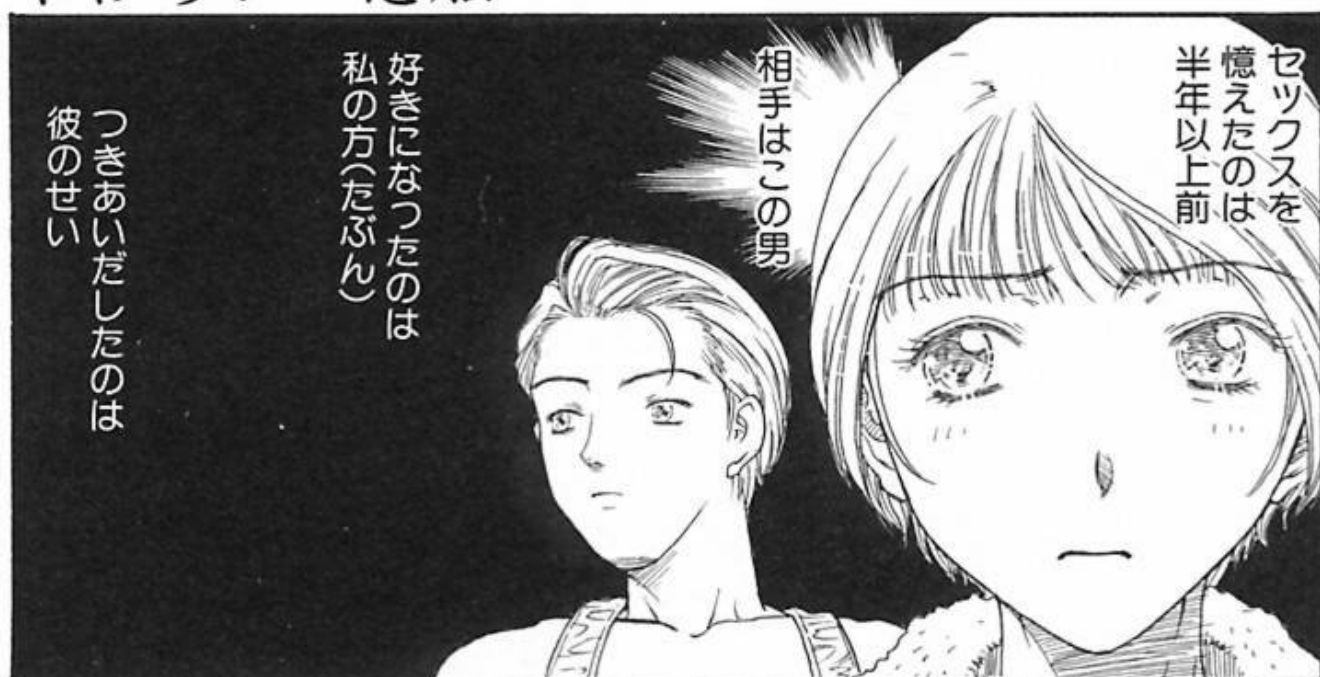


やわらかい感触





やわらかい感触



やわらかい感触





やわらかい感触







やわらかい感触









やわらかい感触





不安がること
ないか……
でも……

お前の唇だからね
なんかふよふよして
いいんだよ



セックスが終わると……



お前はきつと
男のペニスを
くわえるために
生まれてきたの
かもね

「なんでこんな奴」にもなる

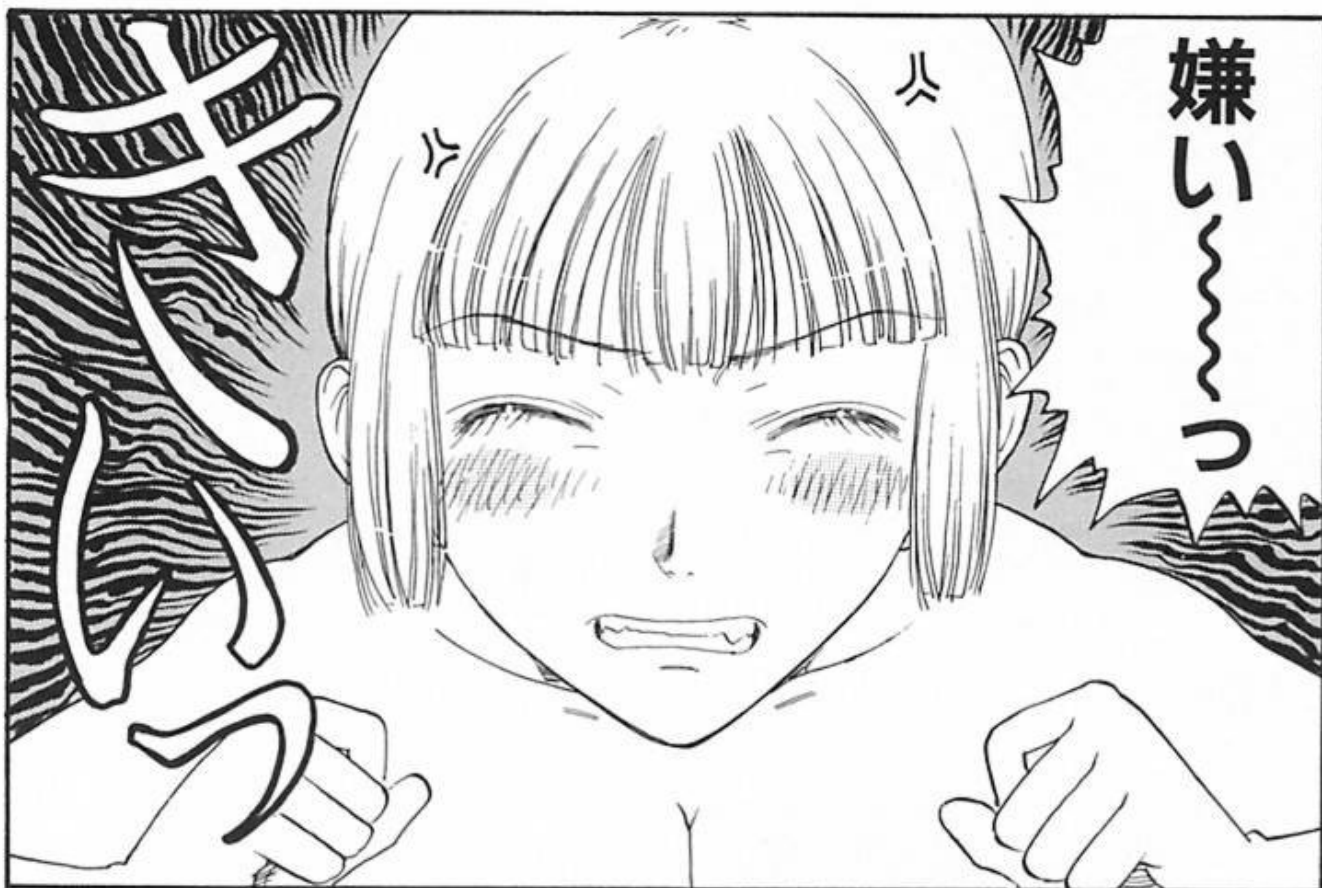
★やわらかい感触／おわり



フニッ

どうして言っちゃうの
彼女の一番嫌いな台詞





どうしても言ってしまう彼女の一番嫌いな台詞



また言ってしまった

彼女は
気にしてるというのに
どうしても
口にしてしまう

オレとつきあう前に
必ずと言っていいほど
それがセックスしてる
みたいだと言われた
らしい

悪気はないんだけどな



もう
こんなに濡れてる

感じちゃって……



いちいち
そんなこと
言わないでよ

エロマンガ
読みすぎ……

君の中に
ボクのが
出たり入ったり
してるよ

俺のチ○コは
お前のマ○コ汁で
ぐちゃぐちゃだぜ〜

なんて言われたら
私笑い止まなくな
っちゃう

あと



私の中で出してエ
マ○コの中に
そそぎ込んで〜



イメージ画像

っていうのもなんか
私おかしくて……

うぷぷ

いくんだよ
俺は
そーゆうセリフで
興奮すんの

お前喋りすぎ
集中出来ないだろ

ぶに

だって
おかしいこと
いちいち言うから
言っときたかったの







どうしても言ってしまう彼女の一番嫌いな台詞







あっ

あっ

スッ

スッ

スッ

はあ

はあ

はあ

あっん

はあ

んっ

スッ

んっ

スッ



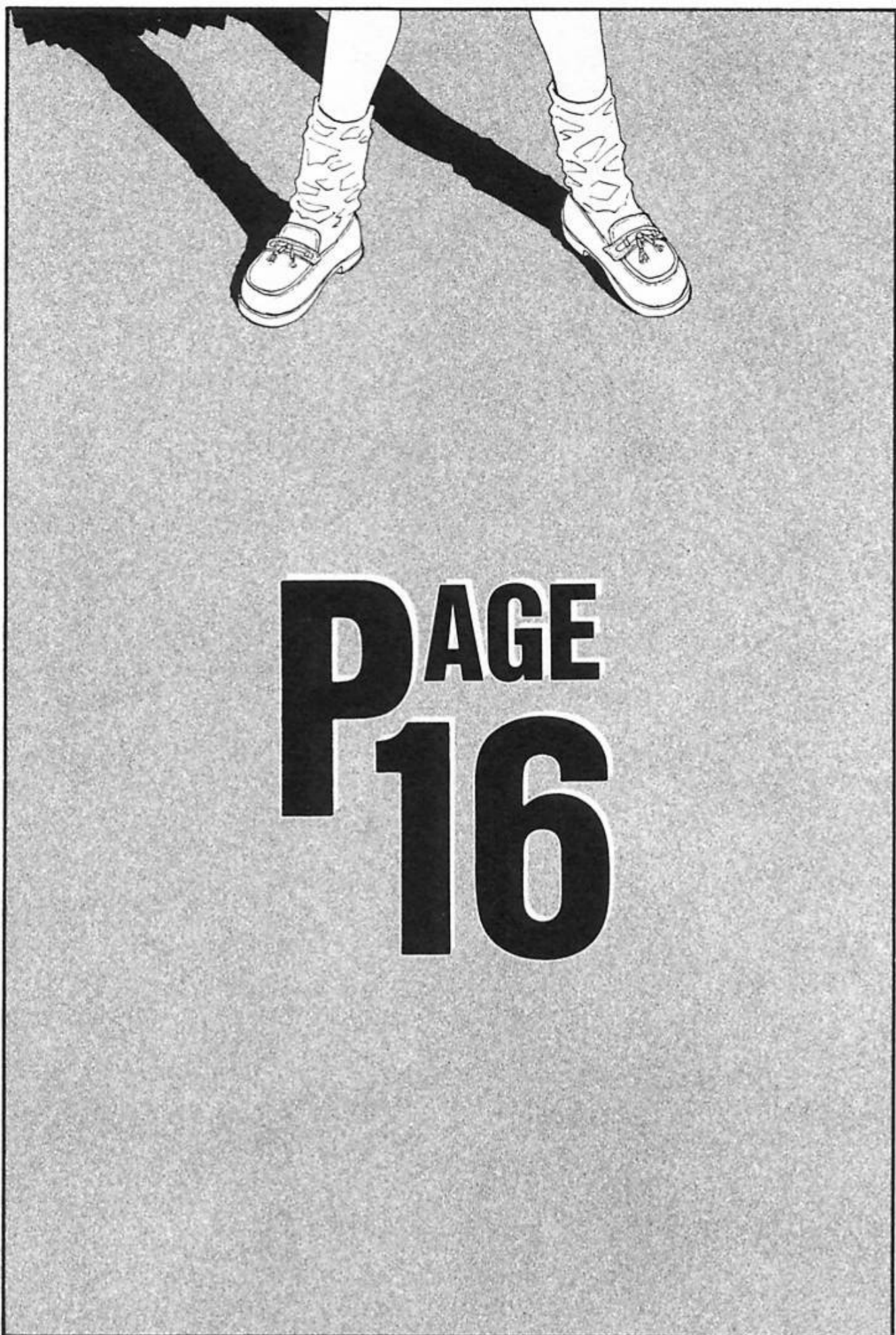






★どうしても言ってしまう彼女の一番嫌いな台詞／おわり





興味はあるの

タロウくん

トクン

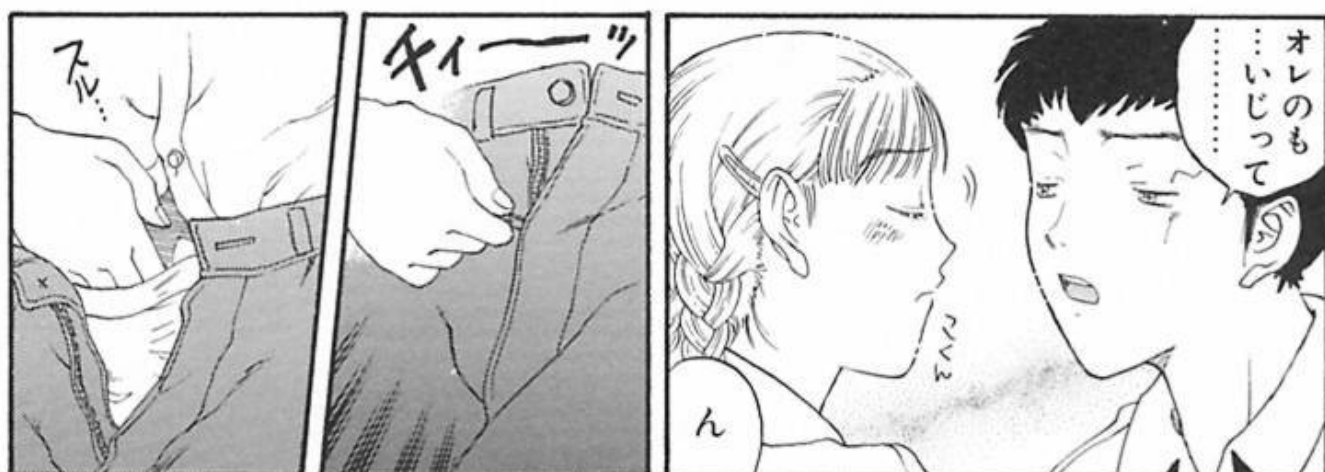
トクン

ハナコちゃん

トクン

キスもしたし
ムネだってあそこだって
さわらせてしまった……
今日……いっちゃうのかな……











怖くなってきた——ッ

どうしょ——
こんな調子じゃ
処女喪失の時なんて想像つかない〜

スル



やだ——っ
心臓破裂寸前!!
死んじやう

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



い



す



よしっ
バツチリか!?

見たいんだ
ハナコの
生まれた時の
姿が……

キ
リッ



だっ大丈夫だよ

こっ……できてます……!!
何か気のきいたこと言わなきゃ

ぐぐ



怖い……

グッ













ドッキン

うん

ドッキン

とうとう

処女じゃなくなるんだ
…私…

ドッキン



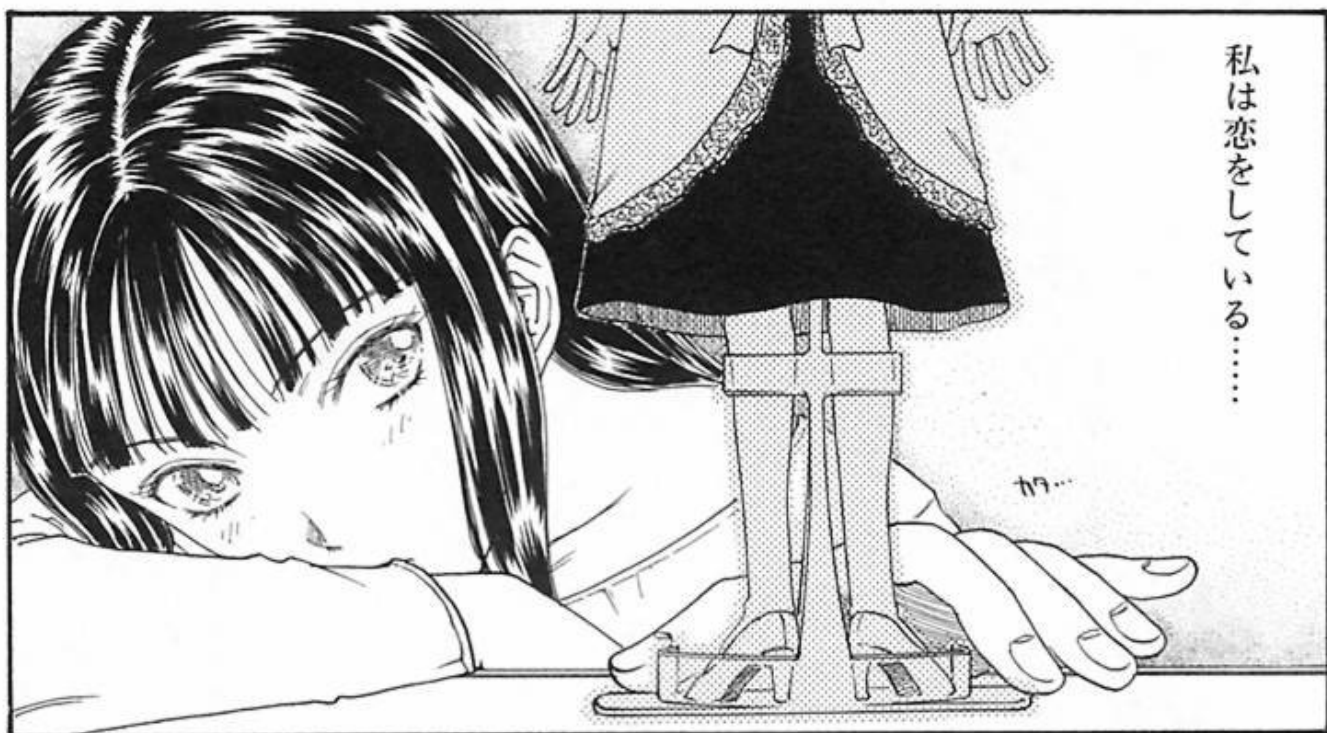


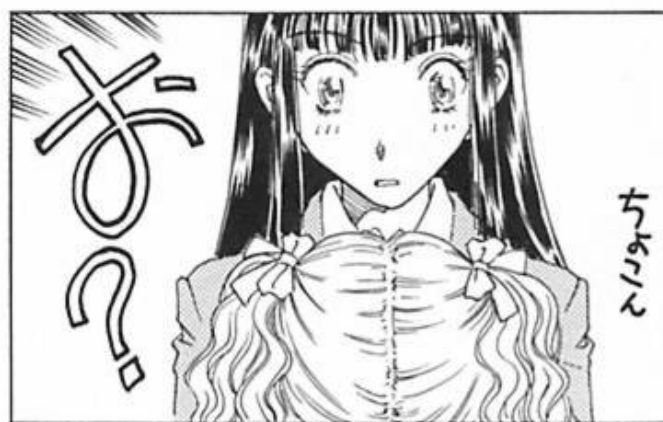


かべにねずみあな

壁に鼠穴

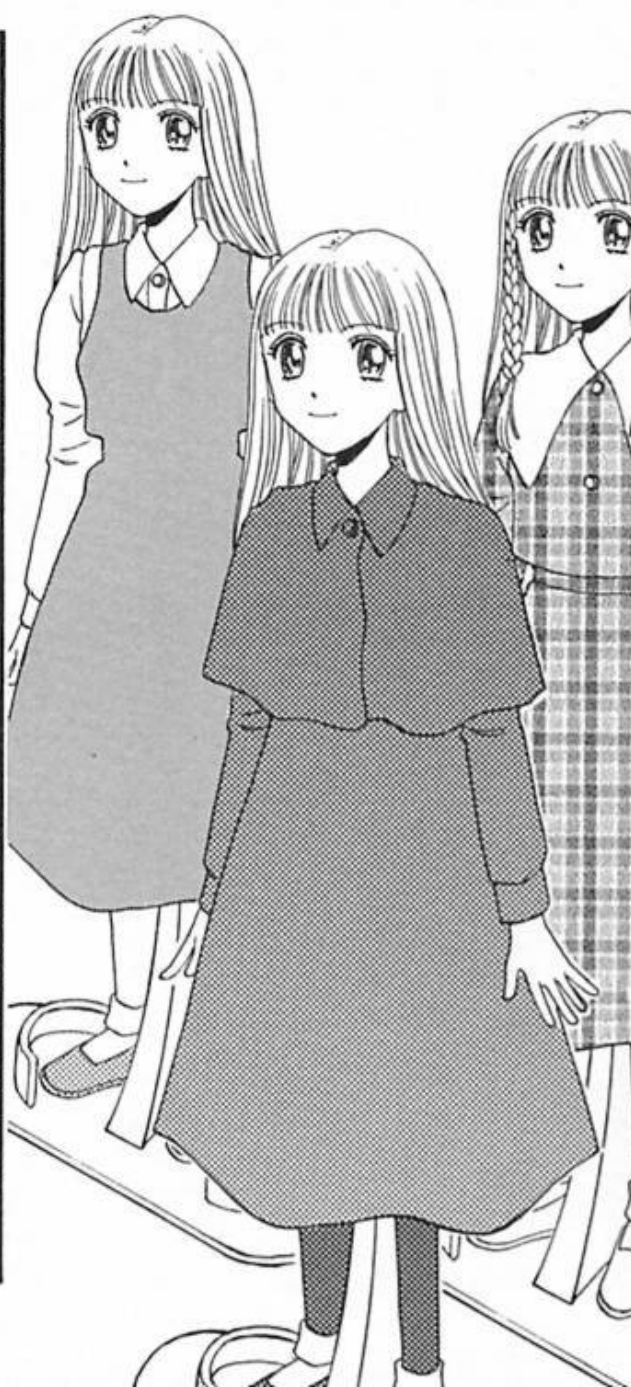
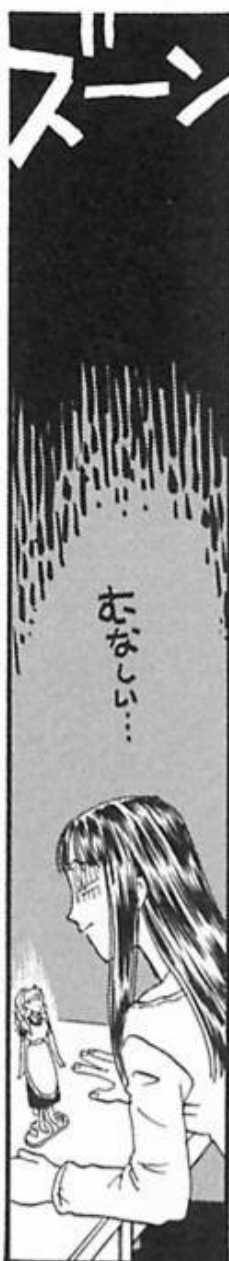








壁に鼠穴





壁に鼠穴









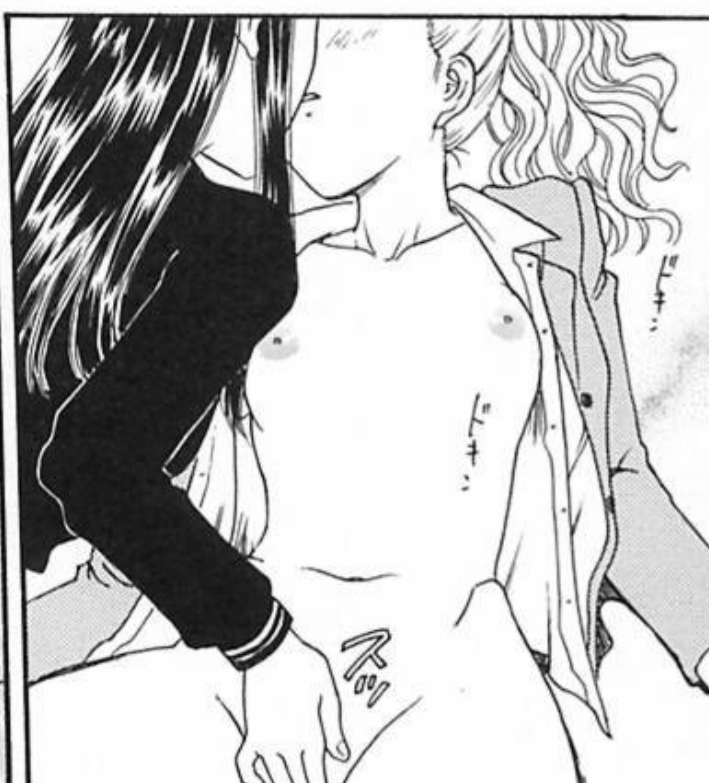
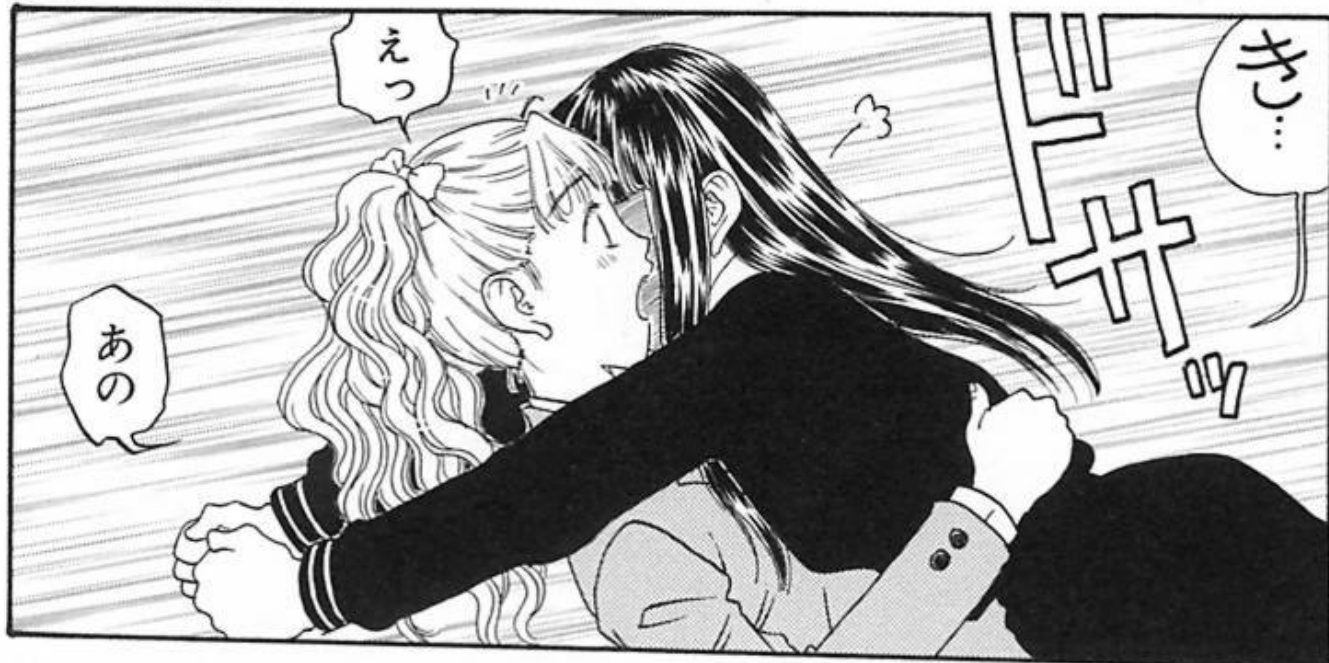
壁に鼠穴







壁に鼠穴





あっ

欲しいな…これ

ビク

飾つときたい……

あんっ

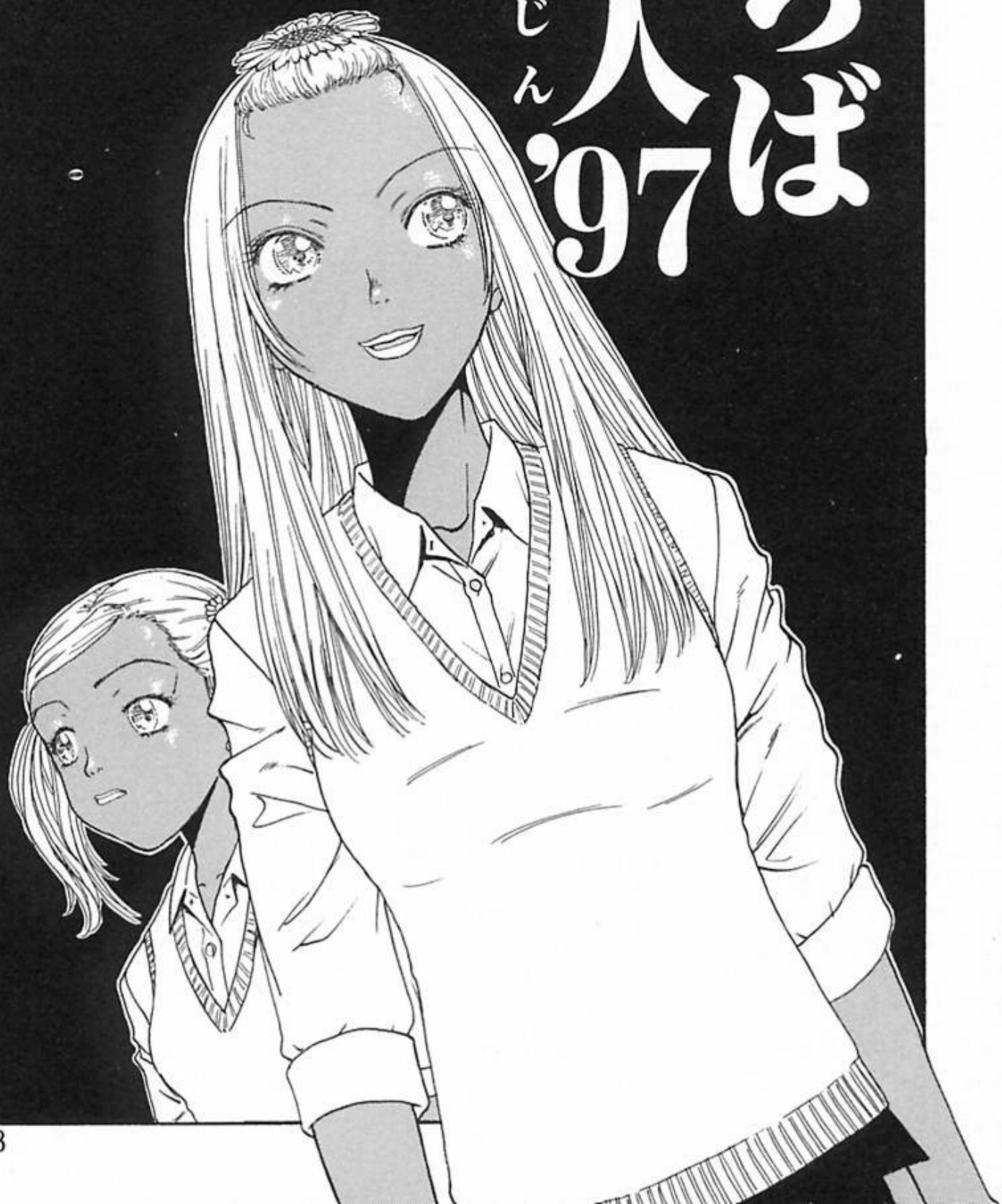




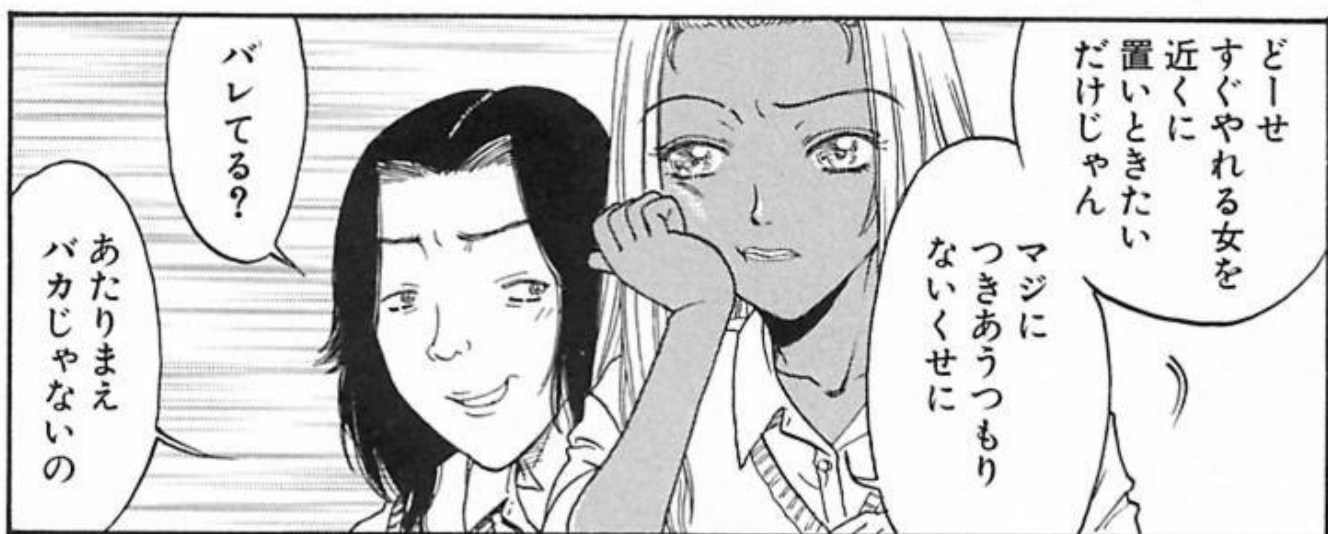
☆壁に鼠穴／おわり

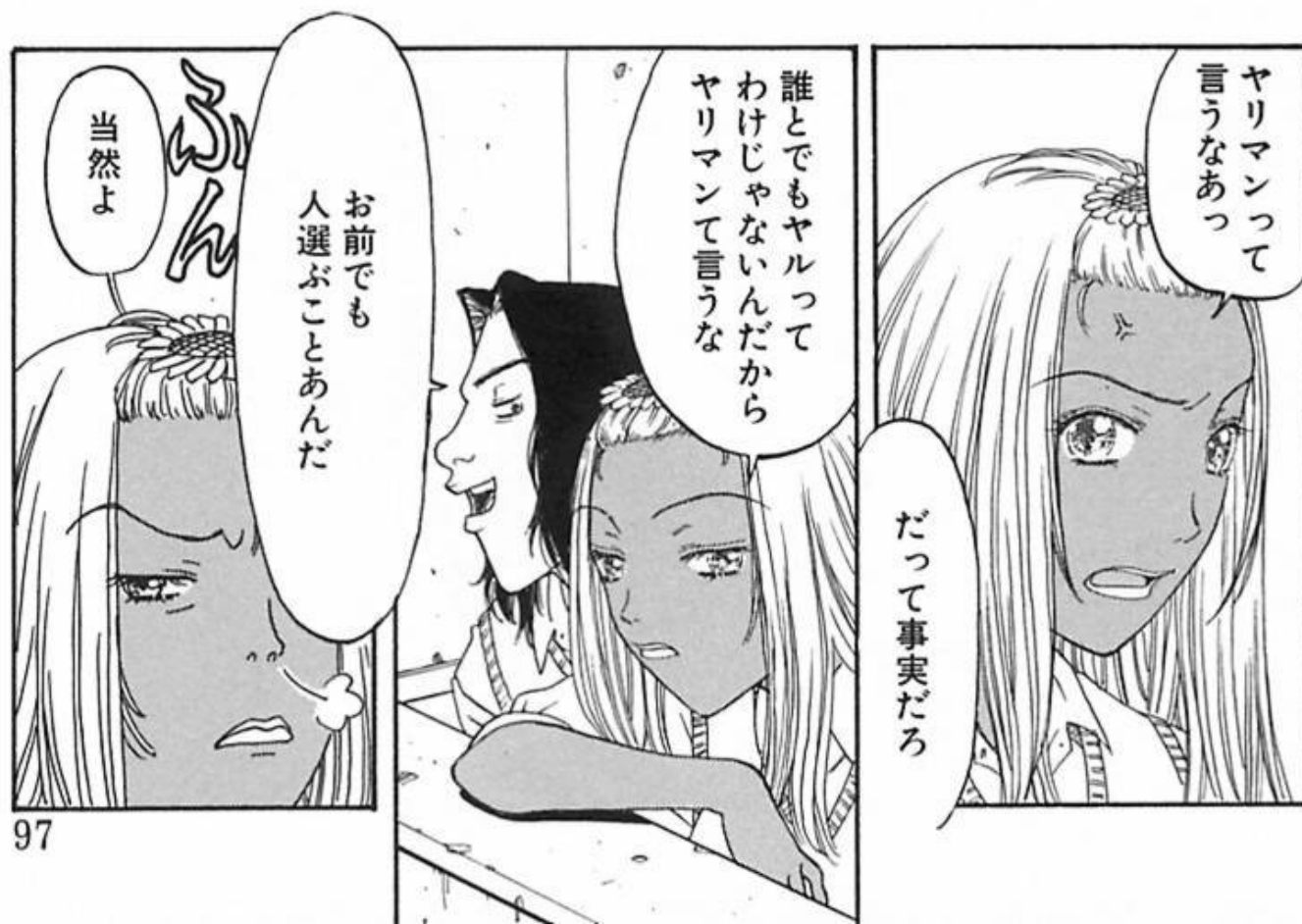
さらば 旧人 '97

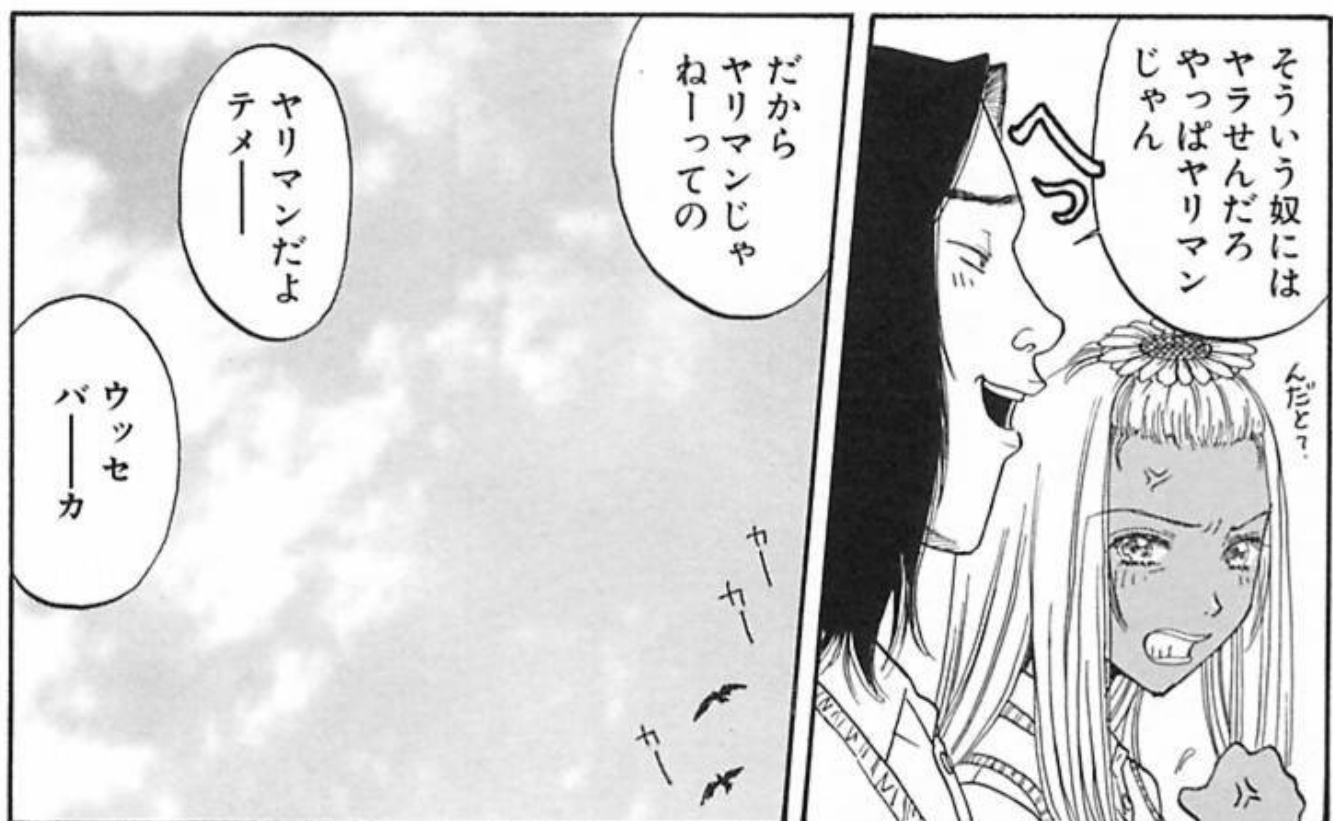
きゅうじん

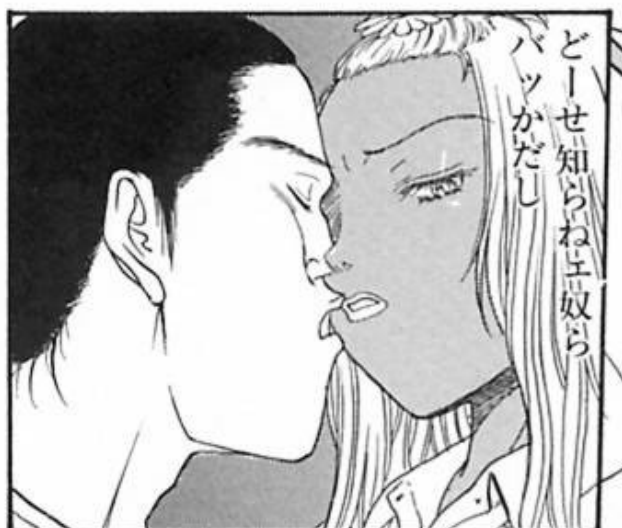
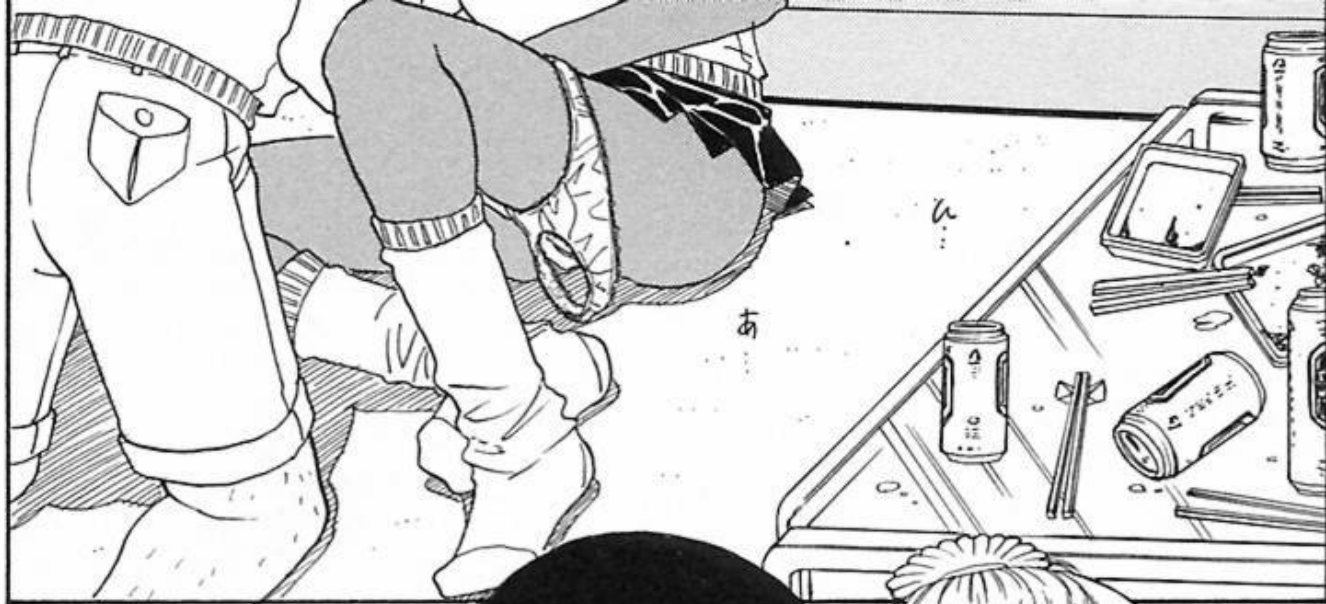


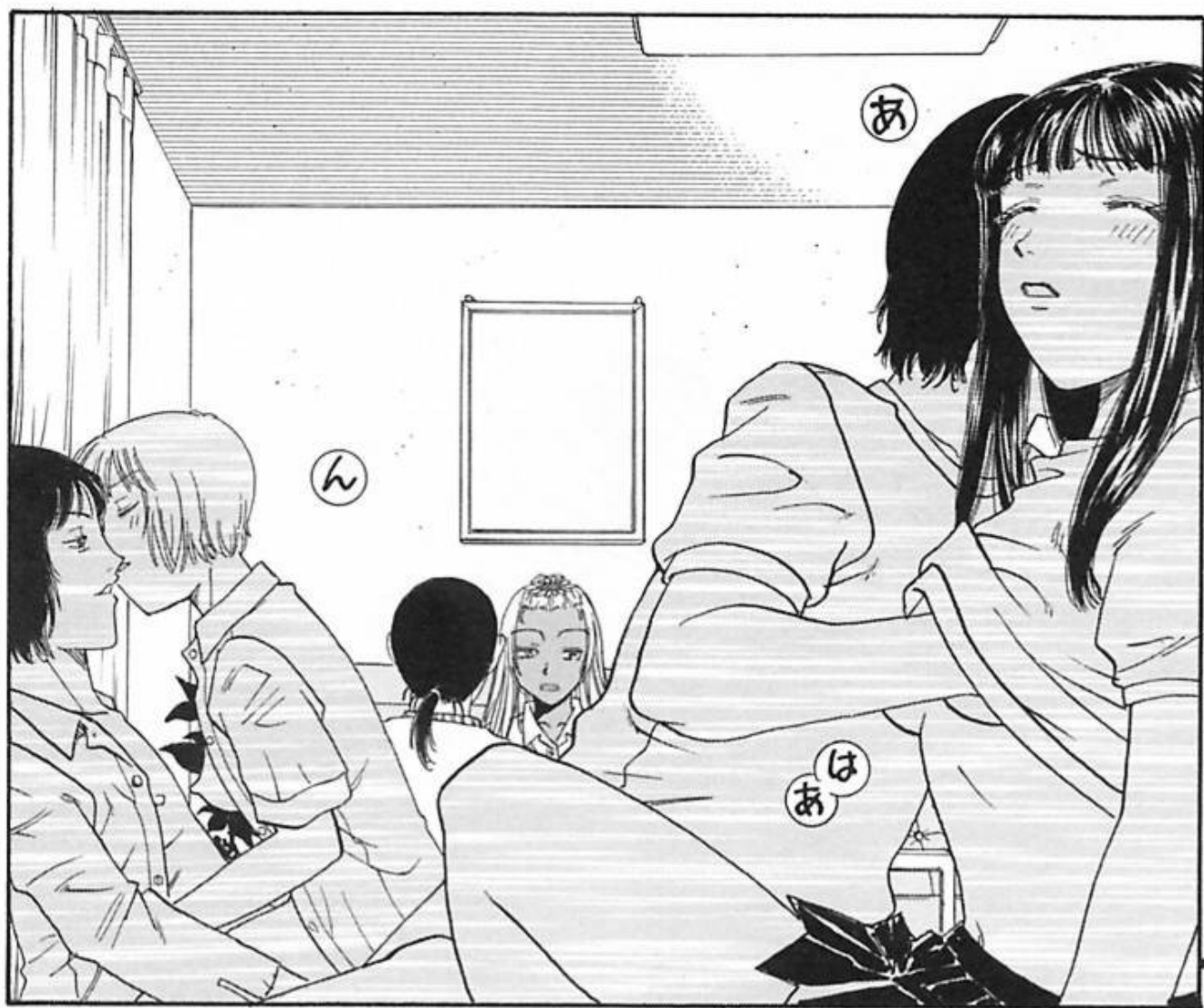


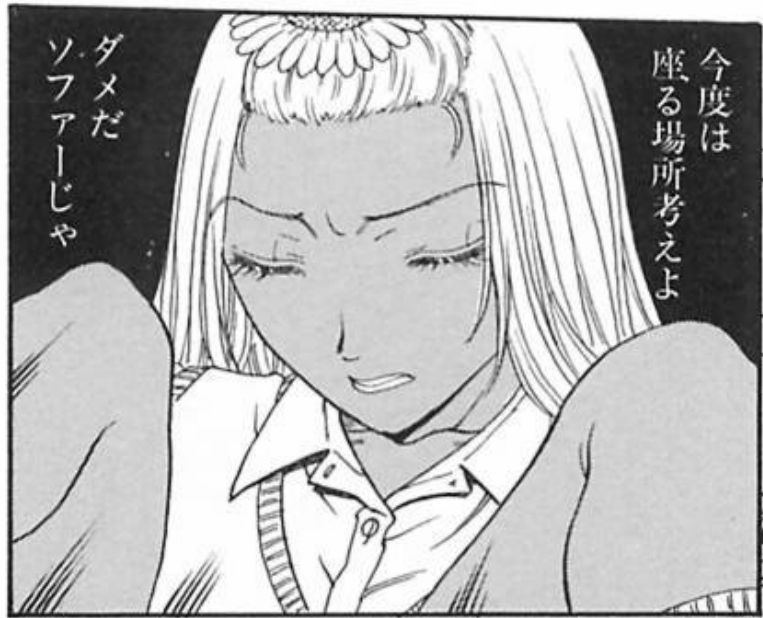


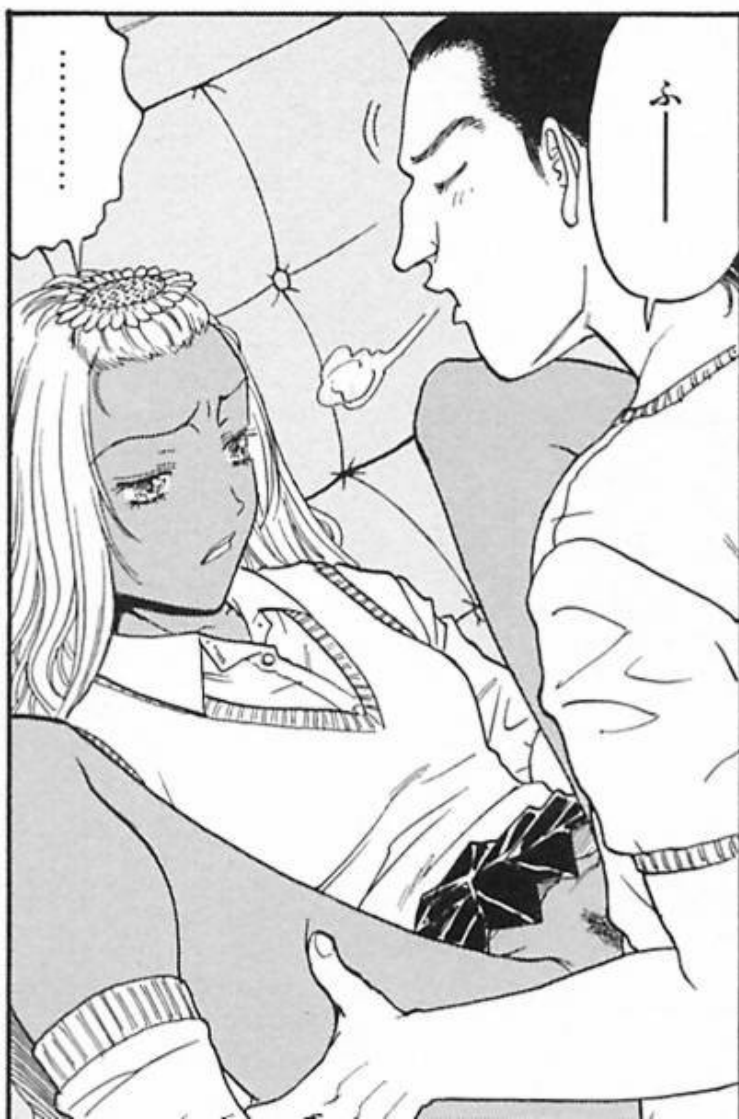
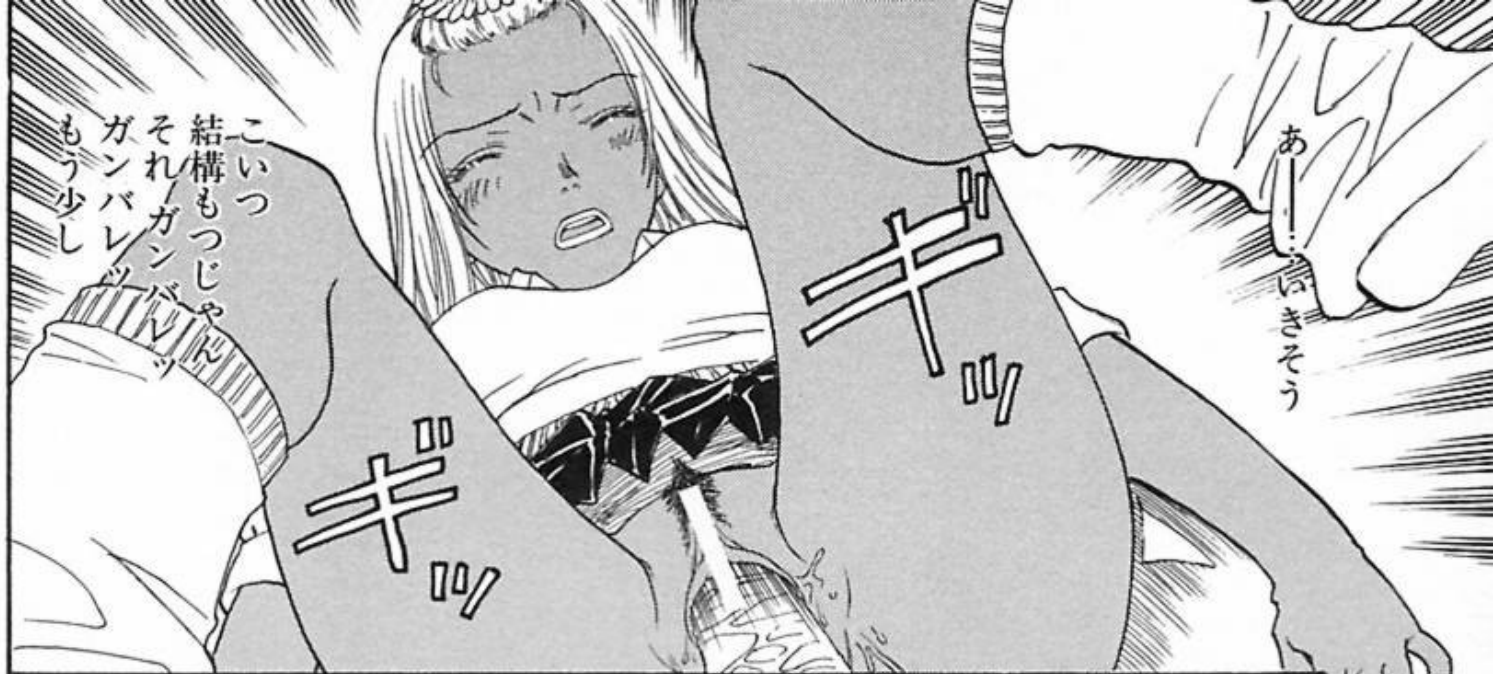












やっぱ
ヤリコンに
なったね〜
最後は…

どうだったア
前田先輩

うんサイコー
私二回も
いっちやった

あきららは？

あたし
いかなかった——
サイテー——つくそつ

ねエ聞こえた？
ホラ 一人黒髪の娘オ
なんかブチュブチュ
いってんの
ヤラシイ——

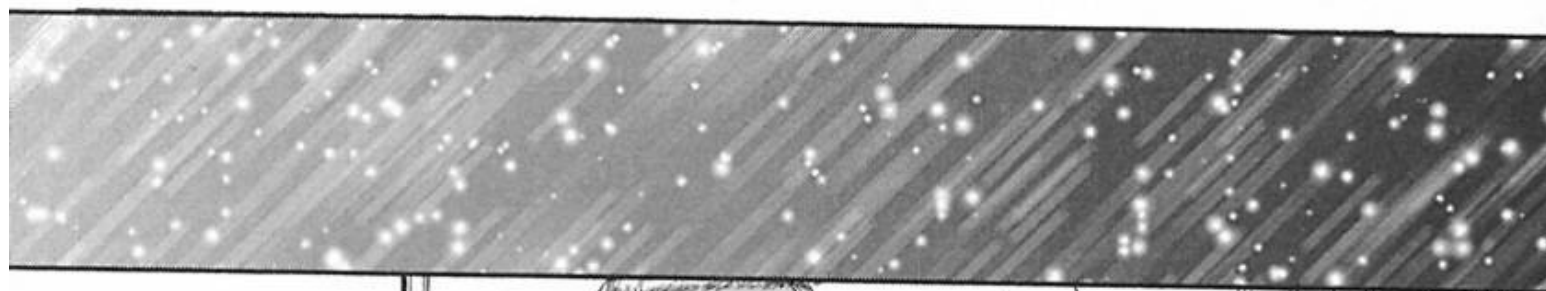
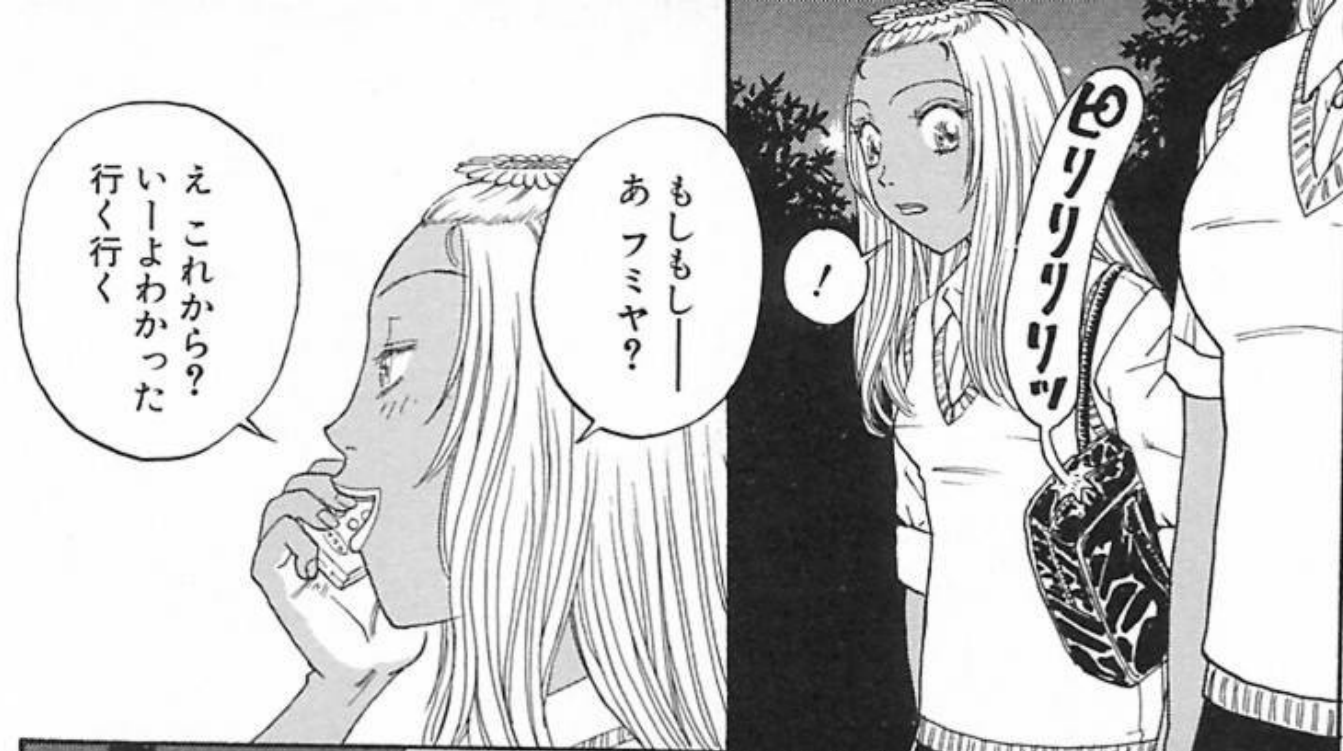
知らない——
あたしソファアの
ギシギシしか
聞こえなかった〜
首痛くてさ〜

空気でも
入ったんじゃない？
そいつう

もう一人は
全部脱がされちゃってんの
恥ずかし——っ
バカだよな——

私あんなコト出来ないイ

よく観察してんねエ
いずみは……









ドクッ

ドクッ

ドクッ



今日も……
がむしやらの肉をこすりあわせ
気持ちよくなる……

明日もあさ……

「セックスは恋愛関係の上で」
なんてもうタサイよ……

夜はもう明けてる……

コケコケッ

★さらば旧人'97／おわり

かわいい溺壺^{にようこ}





ピンポン



ピンポン……



ねえ……
誰か来たみたい……

う……ん？

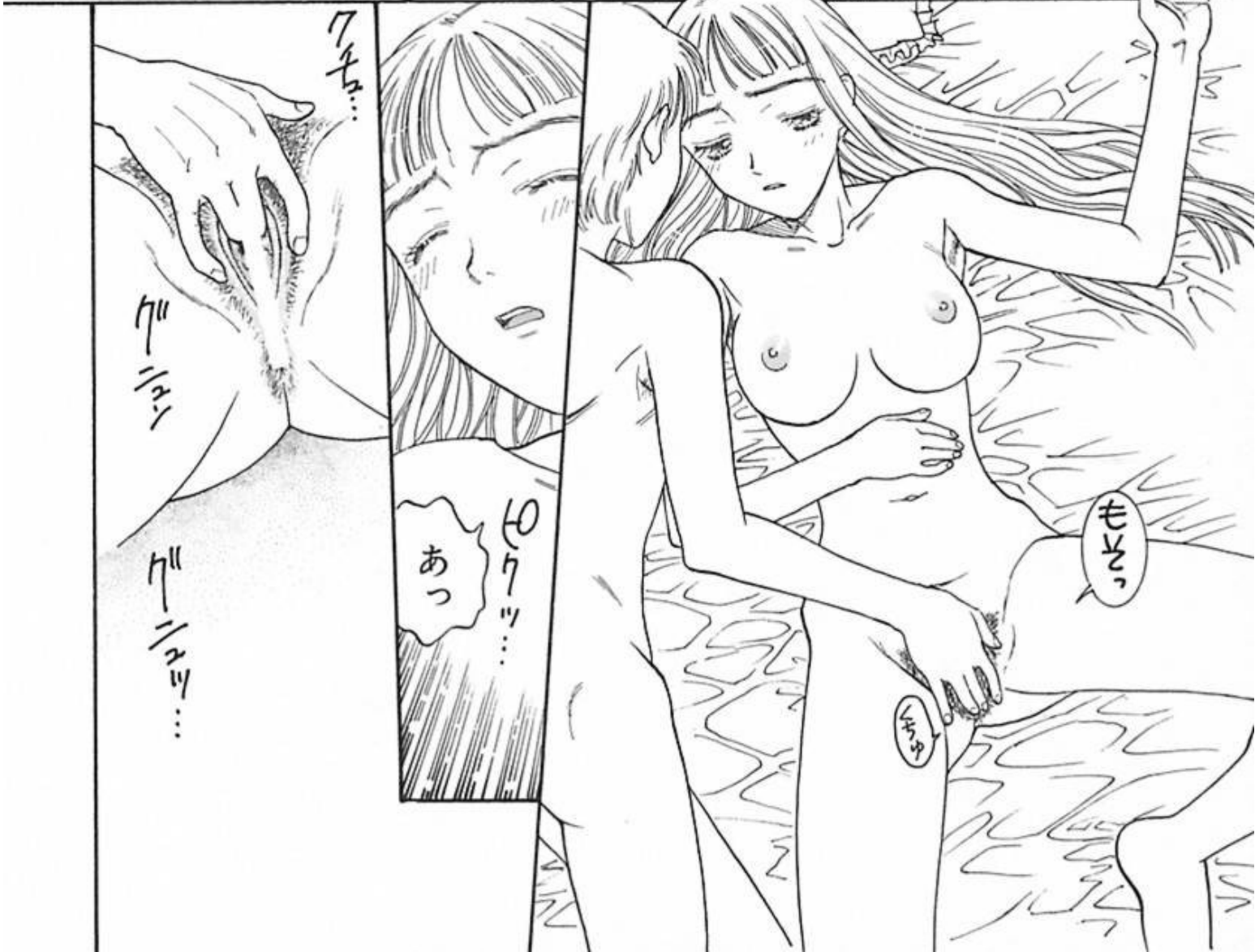
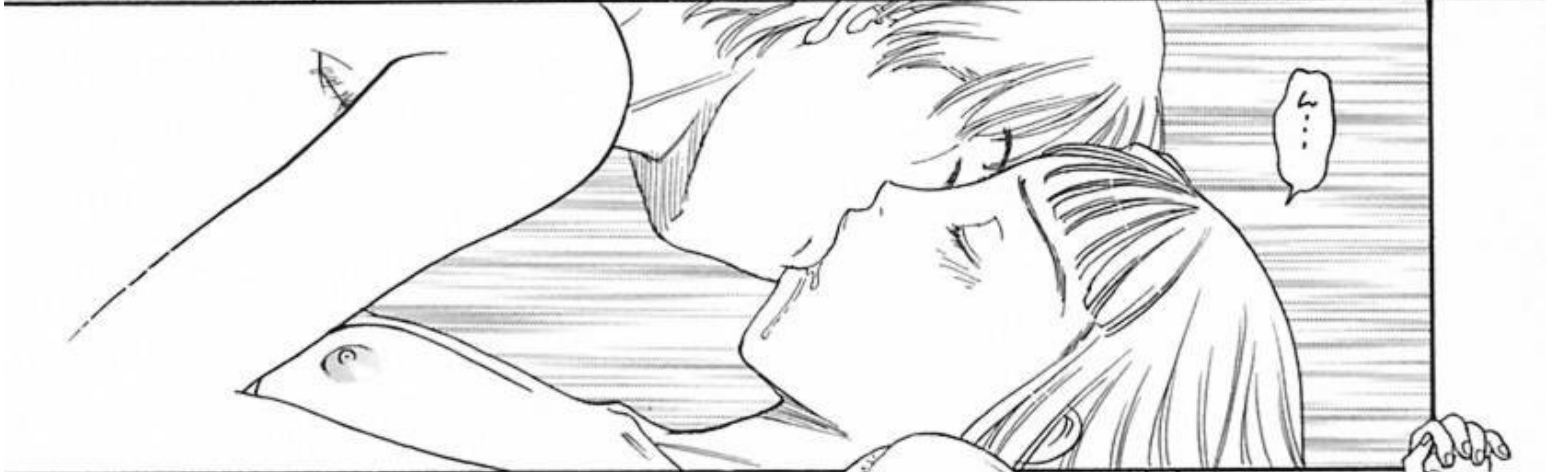
いいよ……どうせ
ほっとくんだし

す

それよりさ

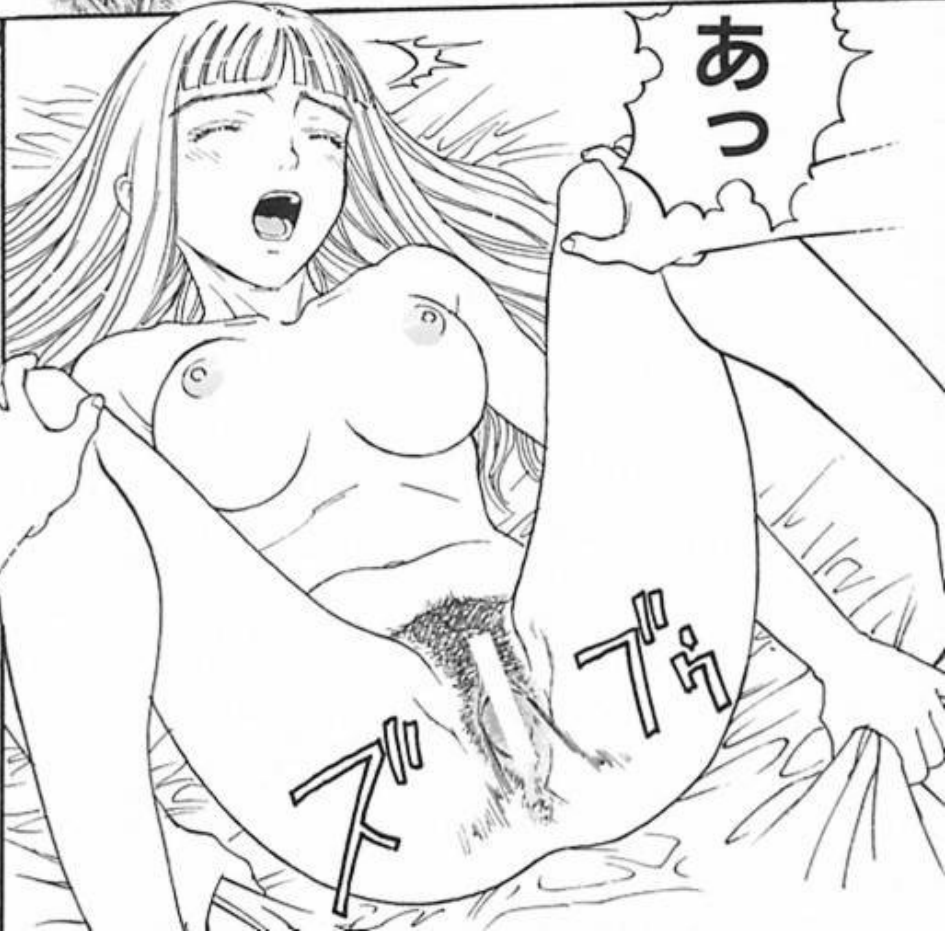
しようよ

クッ……





チッ



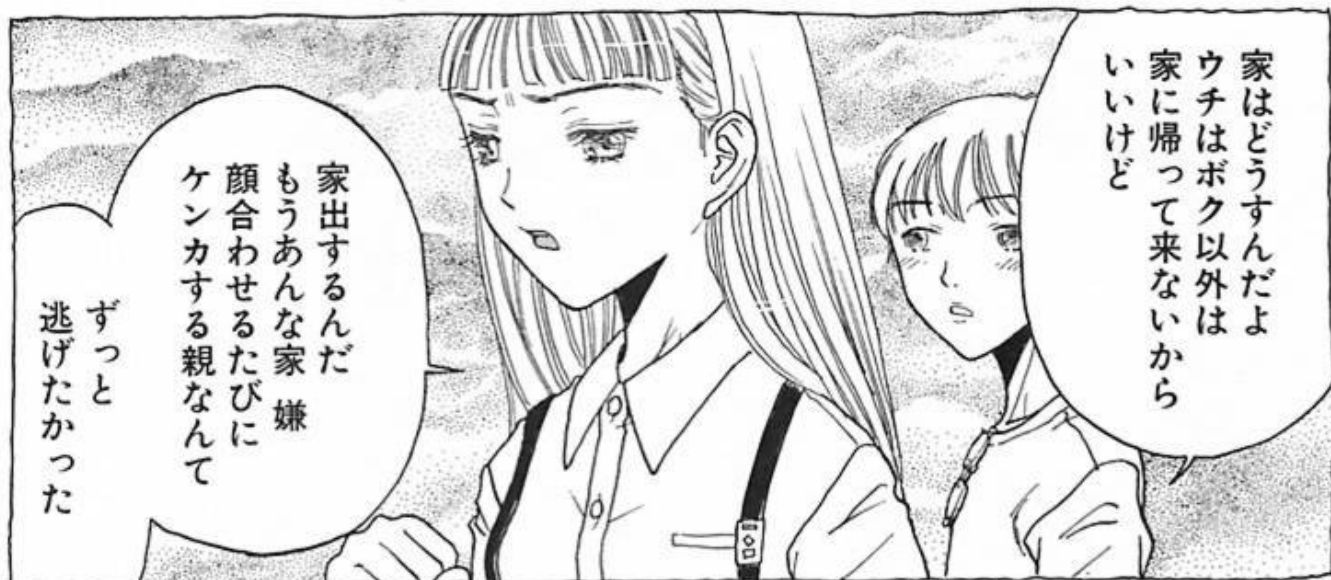


夏休みに
入ったらさ

私 来留くん家に
とまりに行く

夏休みの間中
一緒にいるの

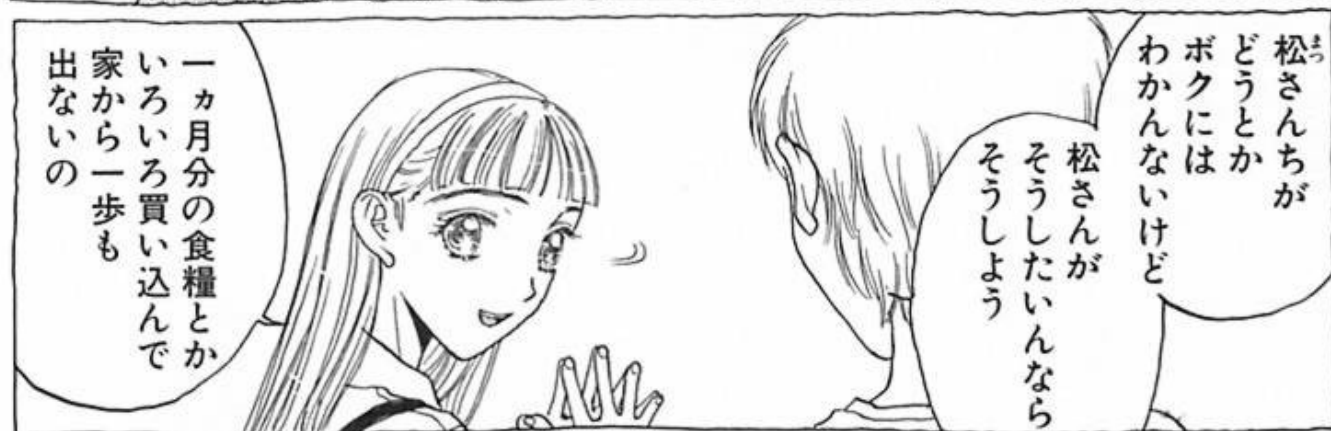




家はどうすんだよ
ウチはボク以外は
家に帰って来ないから
いいけど

家出するんだ
もうあんな家嫌
顔合わせるたびに
ケンカする親なんて

ずっと
逃げたかった



松さんちが
どうか
ボクには
わかんないけど

松さんが
そうしたいんなら
そうしよう

一カ月分の食糧とか
いろいろ買い込んで
家から一歩も
出ないの



ずうっと
一緒に
いるの

うん



最後の夏休みだし
楽しく自由で
すごしてみたい

誰にも何も
言われずに



かわいい溺壺

こんな幸せな
生活なら

もっと早く
すればよかったね

誰にも邪魔されず
楽しいコトばかり
出来るなんて

うん...

うん...

でも私達
つきあいはじめたのって
夏休みの少し前ぐらい
だよ

それまでボクは
松さんに憧れてて
夢に描いているだけだった

松さんが
ボクを好きだと
言ってくれた時
すごくうれしかった

夢ならさめるなって
思ってた

私 来留くんが
私のこと好きだって
友達から聞いてたよ

でも来留くん
陰あったし
あまり話とかしない人
みたいだったから

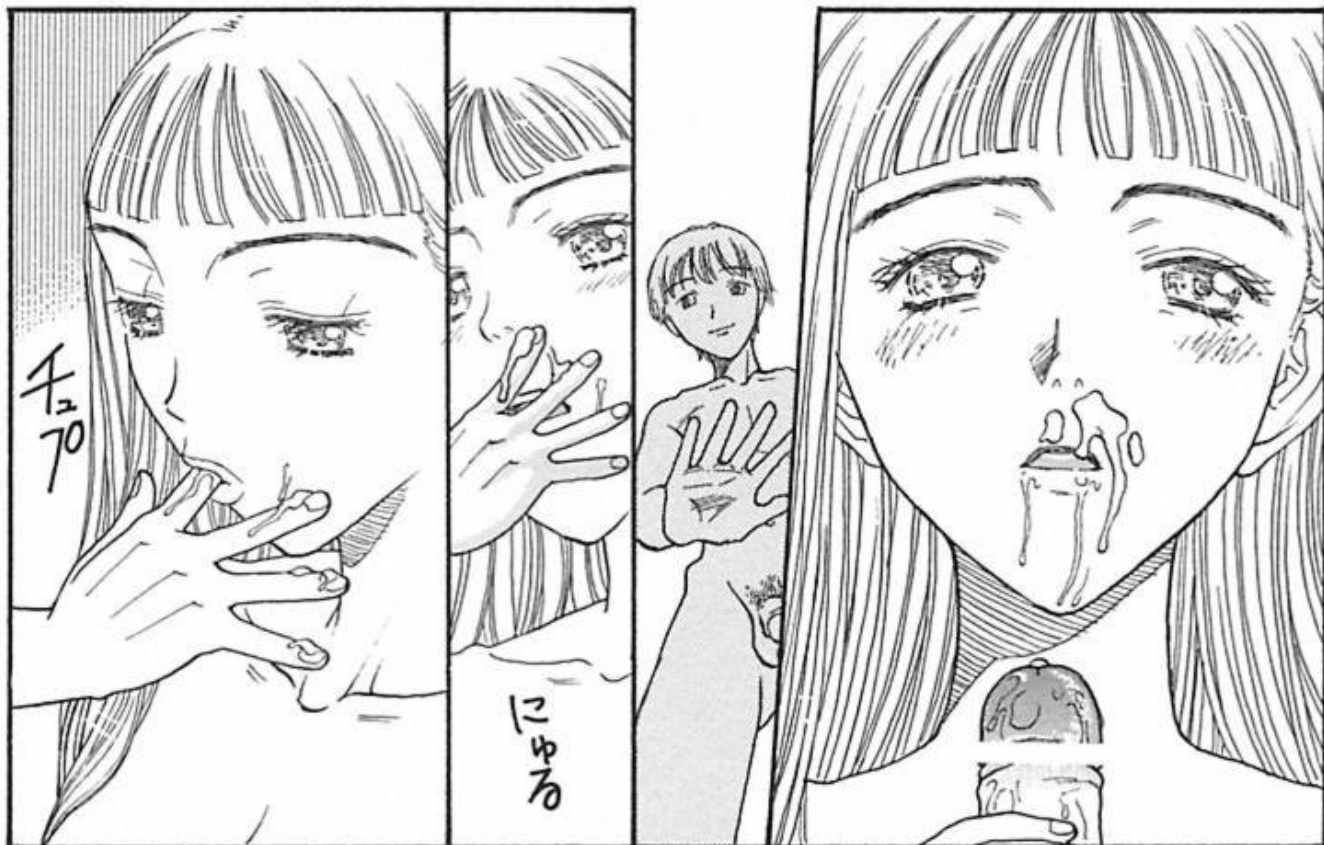
私...
うん...

うん...

うん...



かわいい溺壺



シャワーあびるの
何日ぶり？

三日ぶり
くらいかな

シャ—！……

起きたら
セックスして
眠って……

楽しいね

でも夏休みは
終わりが来る

この楽しい時も
いつかはなくなって
しまう

……

松さん？

どうしたの
何か…声
ふるえてる

帰りたくない

ずっと
このままがいい

松さん……

だめかな
ずっとここに
いたら

私ここにいたい
ずっと来留さんと
すごしていたい





松さん



ズッ



あっ



松さん……

ガク

ほあ

ほあ

ほあ

来留くん……

ガク

ガク





はあ

はあ

はあ

はあ...

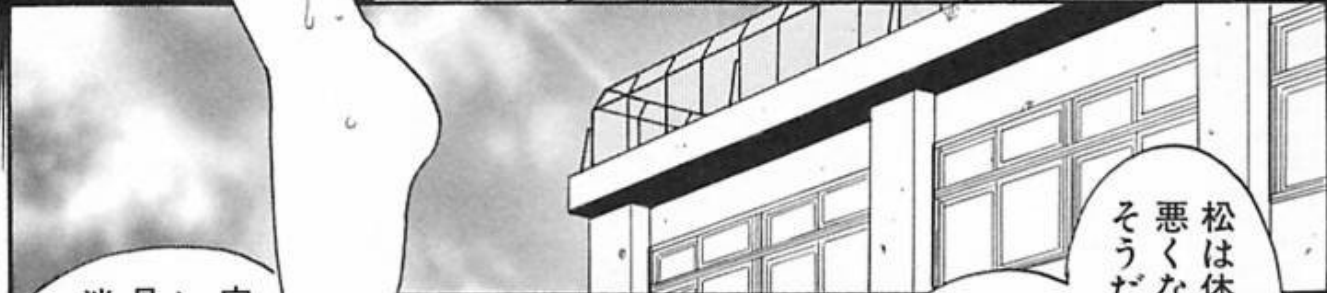
はあ

はあ
はあ...

ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ



松は体の具合が
悪くなった
そうだから

しばらく
休みをとると
親から連絡が
あった

安静が必要だと
いうことなので
見舞いに行ったりして
迷惑をかけないように



平らな道





別に何が不満で
わけじゃないんだ

親だつて学校でだつて
特別嫌つてことが
あるわけじゃない



家を出てみた



ちよんだけ
無に出ます。
な角子



舗装された道を
私は今まで歩いてきた

だからか
……

なんというか……今まで特に
何もなかった生活から
少しだけ離れてみたく
なつて……



というワケで
ちょこっとやっかいに
なるから

よろしく
お願いします



お前ね なんで
家出したのに
オレんトコ
来んのよ

だってホテルとか
私だけじゃ泊めて
くれないし……



あとでオフクロに
電話しとくからな
心配してんぞ
今頃……

心配するかな

あたりまえだよ
バーカ
大体ウチの親は
二人とも
超がつくくらい
おとなし……

ピルルルッ
ピルルルッ



ホラ たぶん
オフクロだよ

はい
ああ
オフクロ
知ってる

ウチに来てるよ
心配ないから
大丈夫大丈夫
オレがちゃんと
送りとどけるから

うん
じゃあな

学校から
帰ってこないから
心配してお前の
部屋に入って
手紙
見つけたん
だってよ……

カキヤ

「ちよつとだけ旅に出ます」？
オレントコ来んなら
そう書いとけばいいのによ

ほっ

本当は
旅に出てみる
つもりだったん
だよ

しゅん

なんで
やめたんだよ

だって私が一人で
ウロウロしてたら
警官とかに見つかって
すぐ家に帰されたり

変な人に
つかまったりしたら
怖いじゃん

でいつ
帰んの？

気がすんだら

平らな道

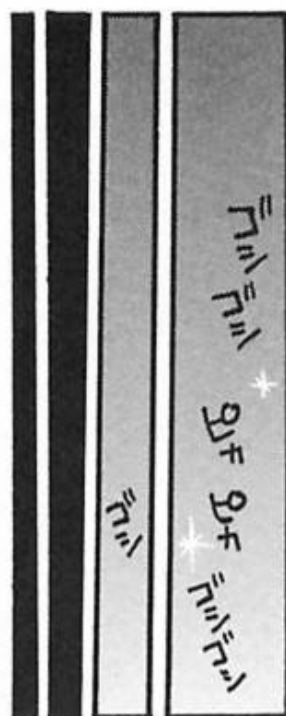




平らな道









アニキの部屋で
オニーをする私



うしろめたさを
感じながらも

いつもより大きい興奮に
身を奪われて……

体は熱くなる

最低だ……
こんなの最低
……

なじる思考も
無抵抗なほどに



最低……





平らな道







特別な何かが
起こつてほしい
ワケじゃないんだ

どうだ？
何か変わった
ことでもあった？

ううん
別に

今の生活に
不満はないし

舗装された道を
歩けるなら
それが最も楽な道

そっか



たまに車が
つっこんで来たり
するかも……

小石に足をとられたり
急な坂道つてことも

舗装された道にだつて
災いつてのは
あるもんだし

歩ける間は
歩いていた方が
いいつてことかな

もぐ
もぐ

そう頻繁に
変わったことが
あったら
大変だしな

歩けもしない荒れた道を
歩こうなんて無茶は
しない方がまだましだ

平らな道を歩いてろ!!

名ばかりの家出は
守られている自分を
感じさせていたのだつた

でも……
物騒な世の中
なんですよ
今は……

無防備な抵抗



考えに考えた
あげく

私は学校へ
行くことにした

遅刻するもの
考えてのことだ

皆の注意をひくために
何よりもあいつの気をひくために

ガラッ

お……い……

どうしたんだ
その格好……

ザッ ザッ

ザッ



この格好は
私の心の傷
そのものです

先生は……
着がえてその傷を
かくせと言うんですか？

私の心を
ごまかせと
言うんですか？

いや……
そうは……

私は心の傷が
いえるまで
この格好でいると

決めたんです

キッ

私は
この格好でいることが
恥だとは思いません

変な目で見られても
かまいません
そんな奴の方が
恥だと思えます

じゅ……

授業を続ける……

私だつて自分で
何やってんだつて思う

こうでもしないと

私は許さないから
あいつを……

Fi

んんん

やっ

17









!!

バァッ...

こいつ!!

ピカ
アッ

こんな奴が!!

一瞬……
通りがかつた
車のライトが

はつきりと
そいつの顔を
照らした

その顔は
私の知った顔だった

クラスの中でも
一番目立たない男

意気地のなさそうな……
暗くてまるで生気のない……
何を考えてんだかわからない……
一番後ろの列のろうか側に
席がある……



お前だろ

昨日……

私を犯したの

何言ってるの……
バカじゃねエの……
そんな格好まで
してさ……

さ……さあ……

なんのことかな
オレ……知らないよ

見間違いじゃ
ないの？

オレ……やって
ないよ……

言ってなさい

かまわないのよ
私は明日から
ずっとこの格好で
学校に通うから

しらばっくれるな!!

見たんだよっ
お前の顔 車のライトで
一瞬はつきりと!!





あなたに汚された
この姿を 皆の前に
さらし続けるから

皆は
どう思ってる
だろう

猥褻？

同情？ 悲哀？

いずれにせよ
私を見るまなざしには
違いがないでしょう



でも
あんたは
知っている

何をしたか……

私の乳首の色は？
あそここの感触は？

精液を
流し込んだ
感想は？



気持ち良かったんでしょ

私とできて
うれしかったん
でしょ

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

でも私は……



気色わるいわ

ヘドが出るっ!!

憎いっ恨めしいっ
いらだ
苛立たしいっ!!

けが
汚らわしいっ!!



ホラ!! よく見なよ!!
あんたがやったことを

あんたが求めた
私の体を

明るい場所で!!

オレ...オレ...
オレは...

スッ!!

君のことが



枕のキモチ







ちよーっと
ガマンできたら
口の中に出させて
あげたのに

そんな
ずるいよオ

ボクは――

ずるいも
ずるくないも
ガマンしだい
でしょ

もう眠いから
寝るの

枕だ……

枕まくらのキモチ



一緒に
住まない？

ねエ
次男くん



兄さんの葬儀から
一週間ぐらいたった日

義姉さんは
ボクにこの提案をした

ボクは義姉さんに
憧れの念を抱いていた
断る理由はない



一人でいると
あの人のことばかり
思い出しちゃって

寂しくなるのよ

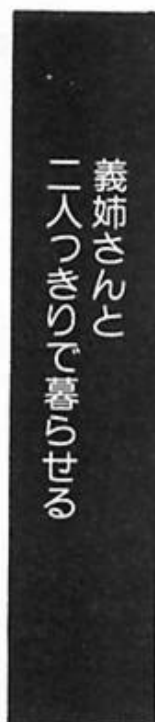


兄さんはもういない



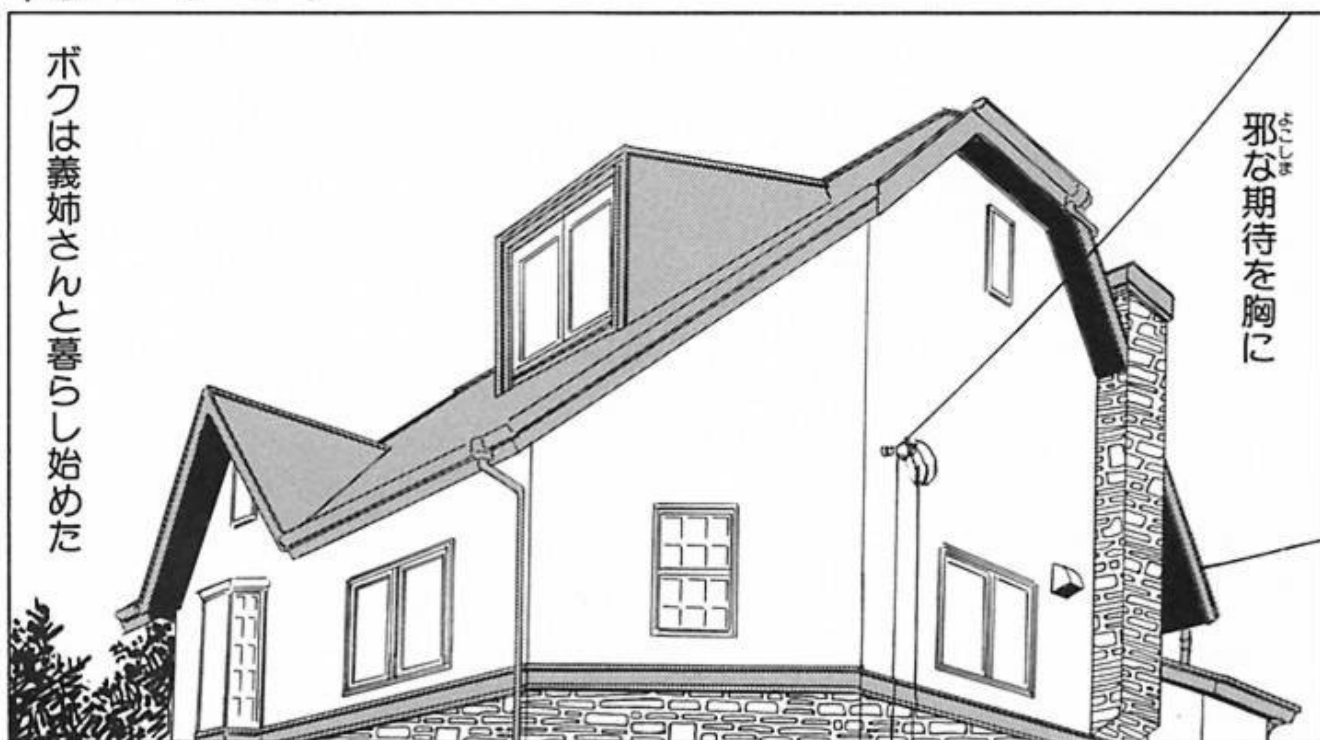
義父さんと
義母さんには
お話してあるの

あとは
次男くんの
返事しだい



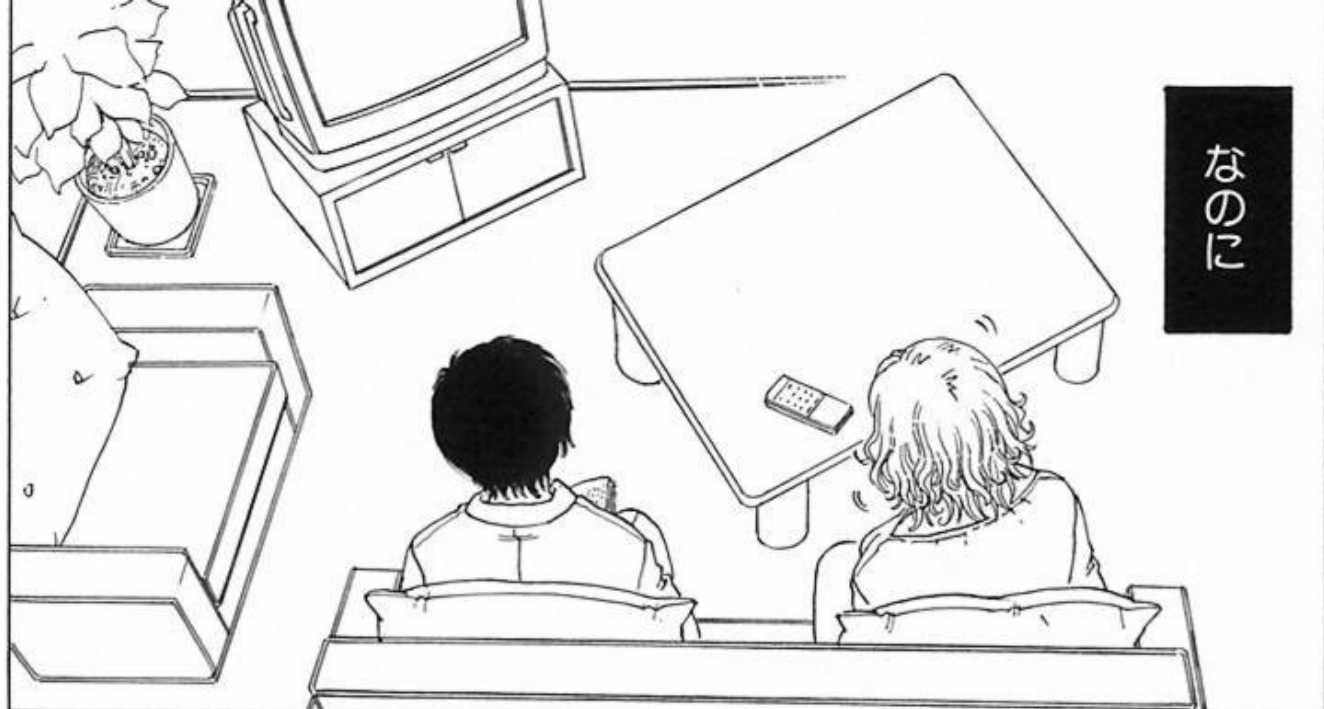
義姉さんと
二人っきりで暮らせる

枕のキモチ





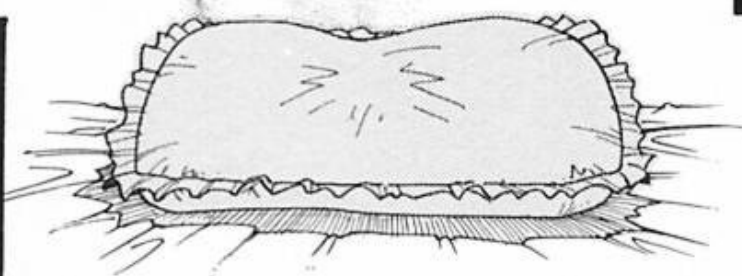
なのに







それが
ボクと夢子さんの
関係の始まり
だった



そう…ボクは
夢子さんの
枕になると
御褒美を
もらえる



最近になると
夢子さんは
遊び気分で
ボクを枕にする

変な服を
着せたりして
楽しむように
なった

なんでこんな
ものなの

よめた
サイズ
あうじゃない

あけるわ
いないよ

その方が
ボクには
都合がいい



その時だけは
兄のかわりではない
自分自身として
夢子さんといれる

じいあなご
ういなる

な、このから

しんないよ...

エ

兄の存在は
いまだにある

ボクが変な服
着るのなら
その時出した
交換条件を

夢子さんが受けた時

モ4
モ4

夢子さんの
全部が見たい

.....
これ以上は
ダメよ

次男くんから
さわったりしたら
これっきりだからね

私は
あの人の
ものだから

しきん

しきん

モ4



何か
ほっとする
あの人が
いないなんて
嘘みたい

！
こういうのを
夢心地って
いうのかしら

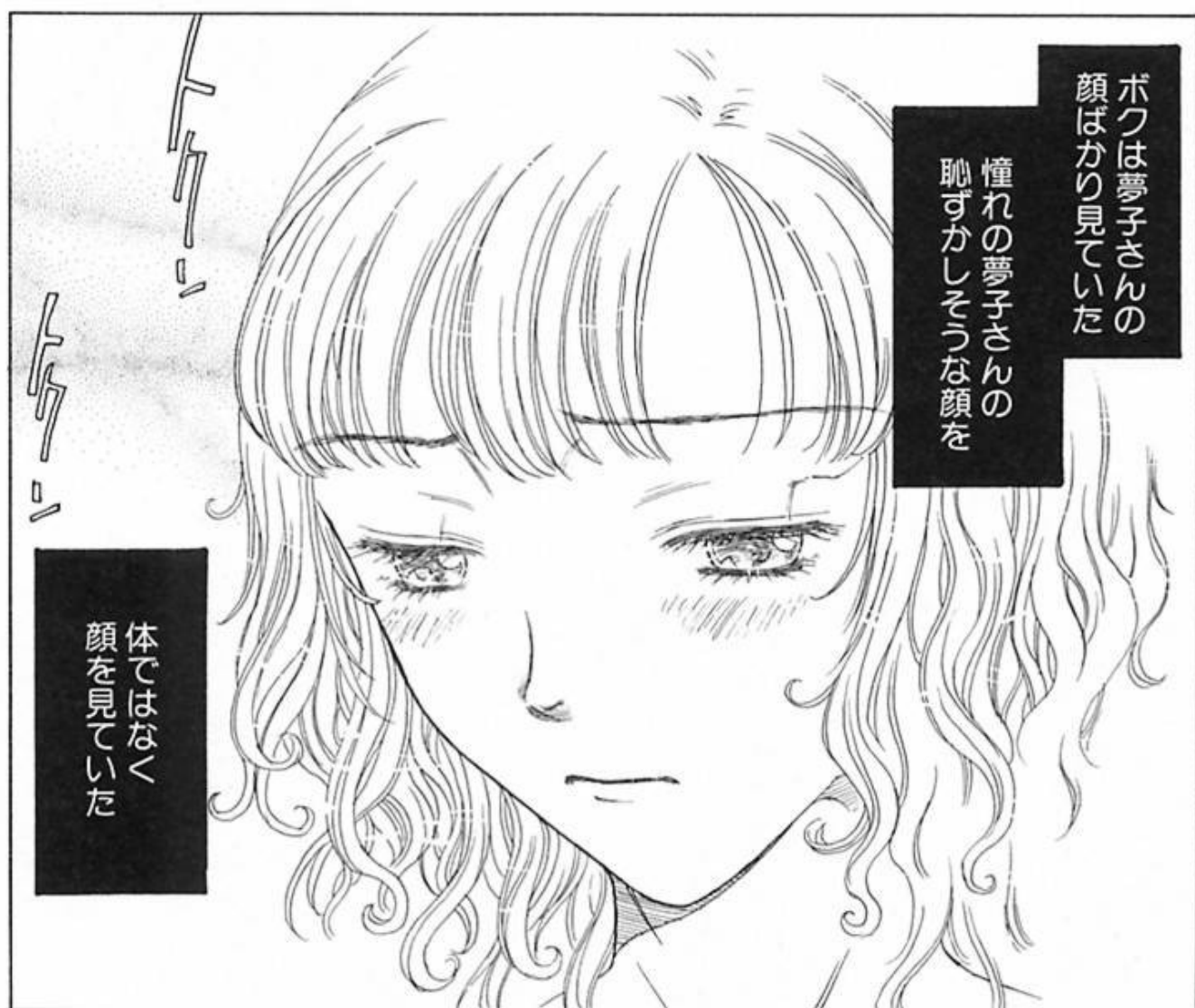


夢子さんはいつも
兄のことを考え
兄の話をする

兄は息づいてる

ボクと夢子さんの間に
しっかりと兄を感じている

枕のキモチ



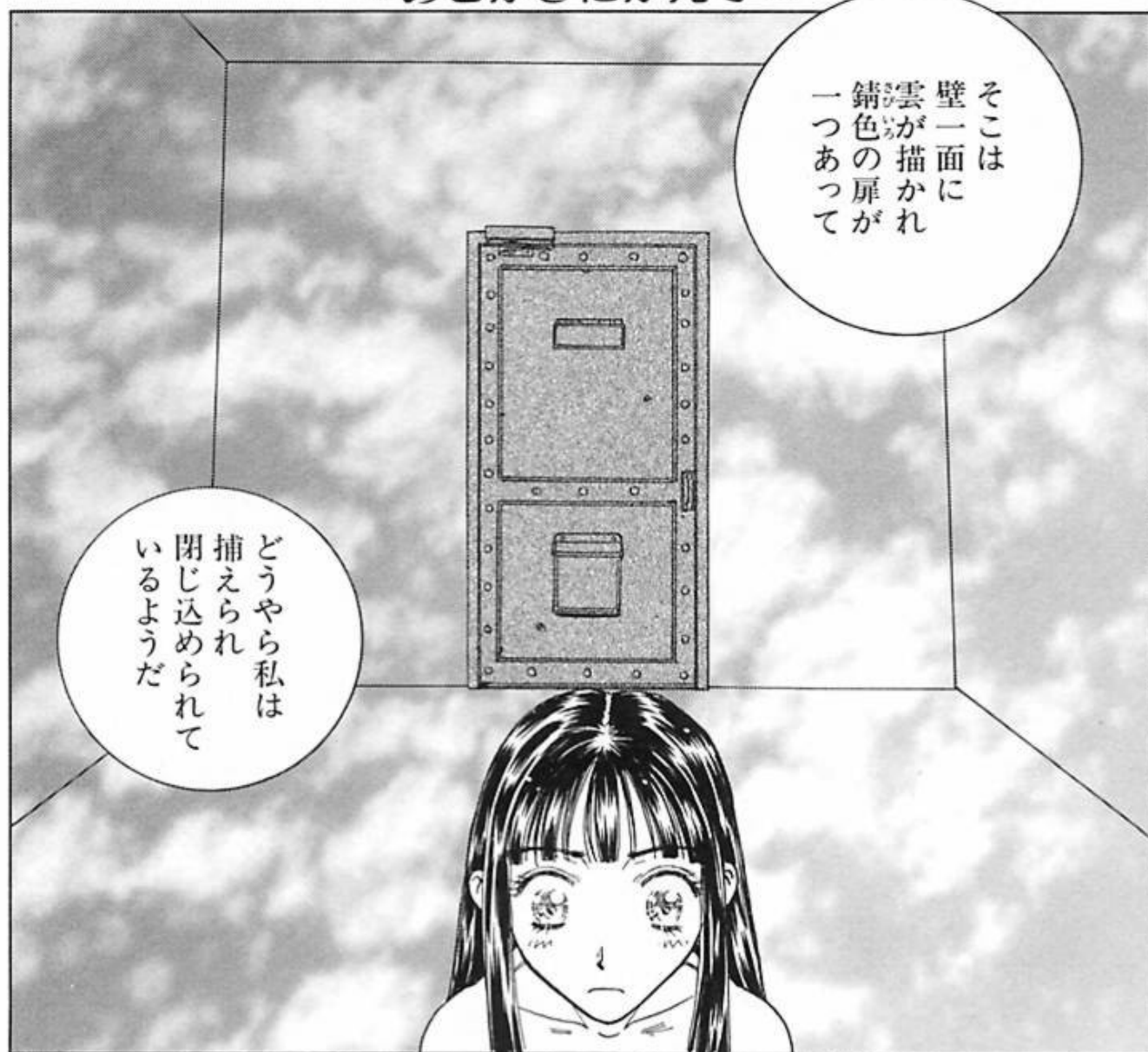
夢子さんの
キレイなその顔……

その眼でボクを見つめてる
その口唇でボクを……

ボクの心は
そこにあるから

この枕は
いい夢を見せて
くれるわね

●あとかきにかえて●



○魔法使いの天上空間○





やがておもむろに
扉が開いて
そこからふらふらと
縞馬が入って来た



縞馬は
細長いペニスを
ぶらぶらさせながら
うろうろしていて

ブヒヒンブヒヒンと
何か悩んでいる
様子だった



魔法使いの天上空間





縞馬は
おもいきりいななくと
私の中に濁りを
はき出した



すると縞馬は
さっきまでの
ふらついた
足どりととは違う
はつきりとした
歩みで

真つすぐ
扉へ向かっていき



そして
ニヤリと
あざやかに笑い
出ていった

私は
少し疲れながらも
晴れた気分で
縞馬を
見送っていた

何か
不思議な力を
感じて
襲に目をやった



魔法使いの天上空間





柔らかな襞

著 者 小林少年

発行者 野田正修

編 集 コミックハウス

発行所 株式会社茜新社

東京都千代田区三崎町2-9-12 弥栄ビル 6 F

電 話 03-3222-1977

F A X 03-3222-1985

振 替 00170-1-39368

印刷 三陽印刷株式会社

写 植 株式会社公栄社

©KOBAYASHI SHOUNEN

Printed in Japan

落丁・乱丁の場合はお取りかえいたします。
定価・発行日はカバーに表示してあります。

アカネコミックス
茜新社

柔らかな襞 小林少年

- おとにあわせうたいおどる
- やわらかい感触
- どうしても言ってしまう彼女の一番嫌いな台詞
- PAGE16
- 壁に鼠穴
- さらば旧人'97
- かわいい溺壺
- 平らな道
- 無防備な抵抗
- 枕のキモチ
- 魔法使いの天上空間
(描き下ろし)





アカネコミックス

柔らかな鬘

定価：本体857円＋税

1998年 2月20日 初刷発行

著 者 少林少年

発行所 茜新社

〒101-0061 東京都千代田区三崎2-9-12

TEL.03(3222)1977

FAX.03(3222)1985

振替 00170-1-39368

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。



9784871822978



1920979008571

ISBN4-87182-297-4 C0979 ¥857E

アカネコミックス

茜新社

定価： 本体857円 + 税

柔らかな襲

小林少年

- おとにあわせうたいおどる
- やわらかい感触
- どうしても言ってしまう彼女の一番嫌いな台詞
- PAGE16
- 壁に鼠穴
- さらば旧人'97
- かわいい溺壺
- 平らな道
- 無防備な抵抗
- 枕のキモチ
- 魔法使いの天上空間
(描き下ろし)

